

国士舘要覧 2013

*Kokushikan
General
Information*

SINCE 1917

国士館要覧 2013

目次

建学の由来と理念	01
理事長挨拶	02
トピックス	03
データファイル2013	04
学生数	04
留学生数/卒業生数	06
就職状況	08
国際交流/財務状況	10
教育	12
学長挨拶	13
学部	14
大学院	16
校長挨拶	18
中学校・高等学校	19
研究	20
支援	22
組織	26
出版物	29
環境	30
世田谷キャンパス	30
町田キャンパス	32
多摩キャンパス	33
館歌・校章	35
歴史	36
年表	36
設置学校の変遷	38
アクセス	40
お問い合わせ窓口一覧	41

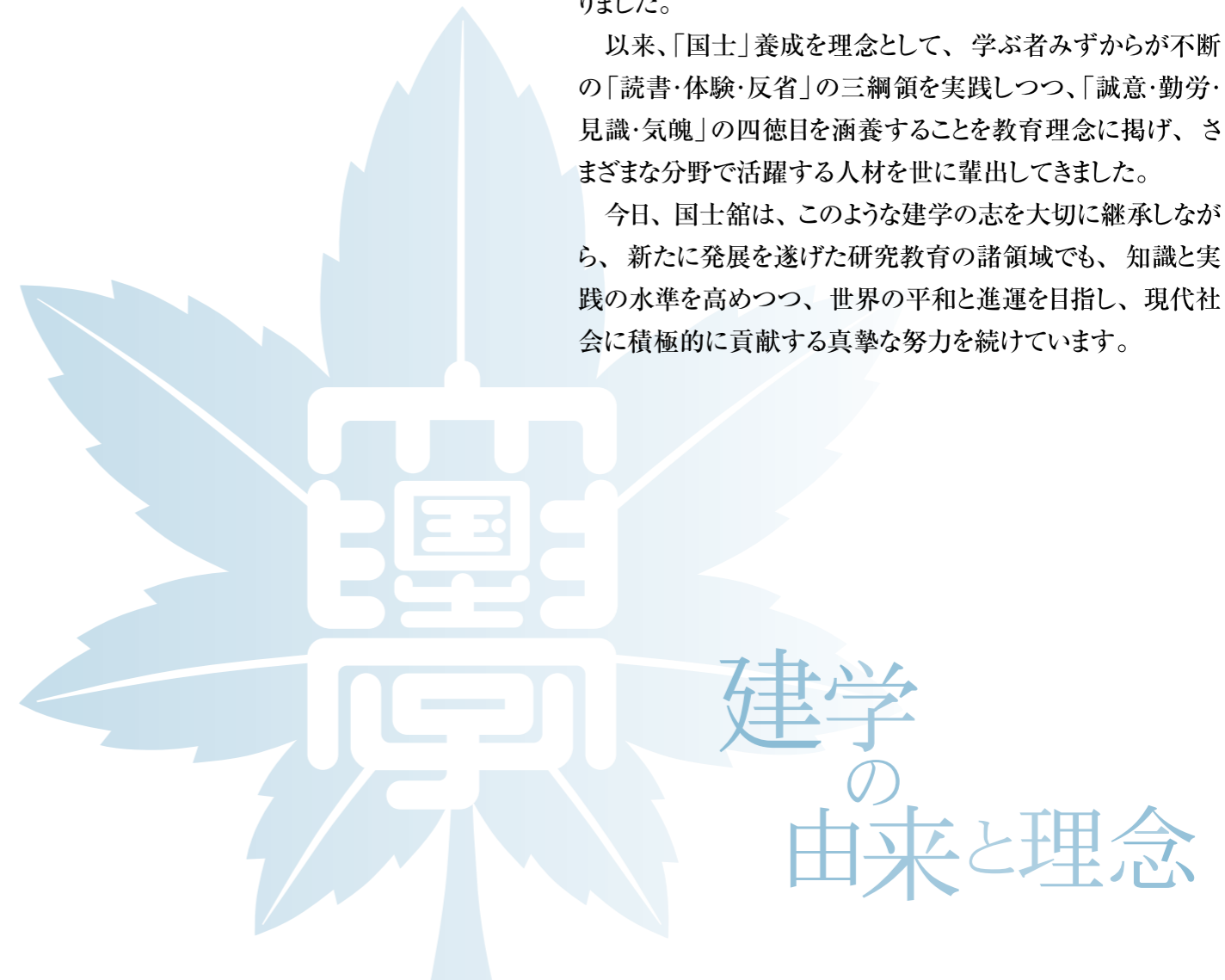
日本は明治維新後、西洋文明を積極的に受容し、社会の近代化を急速に推進してきました。このため社会はおおいに伸張を遂げましたが、あまりに急激な近代化であったため、伝統文化を破壊し、軽視する風潮さえ生じました。日露戦争後には、国内問題が悪化し国民意識が変化するなかで、さまざまな社会問題が発生し、深刻な社会不安が引き起こされました。

このような当時の社会状況を憂い、柴田徳次郎ら有志は、日本の「革新」をはからんと、「社会改良」と「青年指導」を目的として1913(大正2)年「青年大民団」を組織し、1917(大正6)年、「活学を講ず」の宣言とともに、私塾「国士館」を創立するに至りました。

創立者たちのねらいは、吉田松陰の精神を範とし、教学の適地として世田谷の松陰神社隣接地に学舎を建設し、「国士館設立趣旨」で謳われているように、日々の「実践」のなかから心身の鍛練と人格の陶冶をはかり、国家社会に貢献する智力と胆力を備えた人材「国士」を養成することにあります。

以来、「国士」養成を理念として、学ぶ者みずからが不断の「読書・体験・反省」の三綱領を実践しつつ、「誠意・勤労・見識・気魄」の四徳目を涵養することを教育理念に掲げ、さまざまな分野で活躍する人材を世に輩出してきました。

今日、国士館は、このような建学の志を大切に継承しながら、新たに発展を遂げた研究教育の諸領域でも、知識と実践の水準を高めつつ、世界の平和と進運を目指し、現代社会に積極的に貢献する真摯な努力を続けています。





学校法人国士館 理事長

大澤 英雄

おおさわ・ひでお

1936年北海道生まれ。1960年国士館大学体育学部卒業

1960年本学に奉職、81年体育学部教授、1992年から2001年まで同学部学部長、2003年から2006年まで国士館大学学長

2006年本学名誉教授、学校法人国士館常任理事、2008年6月から学校法人国士館副理事長を務め、2009年4月学校法人国士館理事長に就任

1998年全日本大学サッカー連盟理事長、1992年日本サッカー協会理事、2004年全国体育系大学・学長学部長会会長、2008年から全日本大学サッカー連盟顧問

2009年から体育大学協議会理事、2012年から日本私立大学協会理事

国士館は1917(大正6)年に「私塾 国士館」として創立されて以来、一貫して「文武両道」に秀でた人間形成を重視する教育を行ってまいりました。1958年に国士館大学が開校されると同時に体育学部が設置され、以来、学園内外の方々の厚いご支援により、大学7学部・大学院10研究科および中学校、高等学校を擁する総合学園として発展してまいりました。

「世のため人のために尽くす人材」の養成を旨とした創立から96年を経て、表現方法は時代とともに変化を遂げてまいりましたが、その根底にあるのは「他への献身」という考え方です。これは、真心を持って人に尽くすことであり、私が学生時代に、本学創立者の柴田徳次郎先生が学生に対して深い愛情をもって教える姿から学んだことであります。本学が教育理念として掲げている四徳目「誠意・勤労・見識・気魄」の実践により人材育成をはからんとした創立者の思いを、現代のニーズに合わせて教えていくことが、継承者である私たちに課せられた使命であると考えます。

東日本大震災以来、「誰かのために役に立ちたい」という意識を強く持つ若者が増えたと聞きますが、一世紀近く前に創立者が掲げた理念は、今も脈々と受け継がれており、まさに現代の日本にこそ、必要とされる人間像であります。国内外に難問が山積するこの時代において、国士館は建学の精神を継承し、積極的に社会貢献を果たす真摯な努力を続けてまいります。

本学園は2017年に、創立100周年を迎えます。節目の年を迎えるにあたり、2008年には、時代の進展を支えるに足る教育と研究の拠点として、世田谷キャンパスに「梅ヶ丘校舎」を完成させました。大学全学科1キャンパスでの一貫教育がスタートし、各学部・学科の特色を前面に出した4年間を構成することができるようになりました。また、2013年4月には、学生・生徒がいつでも利用できるスポーツ施設や学生ラウンジなどを備えた地上5階、地下3階の複合施設「メイプルセンチュリーホール」がオープンしました。引き続き学修環境のより一層の充実を目指し、各キャンパスの整備に力を尽くす所存です。学生・生徒諸君に「国士館で学んで良かった」と心から思ってもらえるよう、愛情を注ぎ、あたたかな心の通う学園にしていきたいと思います。

トピックス

Topics

大連東軟信息学院と学術交流協定を締結



本学は2013年5月、中国・大連東軟信息学院と学術交流協定を締結しました。同大学は、中国では12校目の海外協定校となり、これにより本学の協定校は40大学・1機関(19ヶ国・1地域)となりました。

教員や学生の交流をはじめ、共同研究、インターンシップ、スポーツ交流プログラムなど学生の目的やレベルに応じた多彩な留学プログラムによって、より高い国際感覚と語学力を磨く機会を用意しています。

救急システム研究科に博士課程を開設

本学は2013年4月、大学院救急システム研究科に博士課程を開設しました。

本研究科の博士課程は、病院前救急医療の研究をリードし、病院前救急医療に関する研究活動を行うとともに、災害時の危機管理、平常時の救急医療に精通し、地域の救急医療システム構築を促進する研究者を養成することを主な目的としています。



理工学部が創設50周年

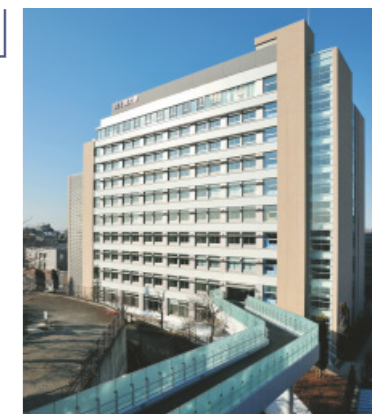


本学理工学部は、2013年に創設50周年を迎えました。記念行事では、小・中・高校生対象の体験講座や企画展示のほか、ノーベル物理学賞受賞の益川敏英博士を招いて講演会を開催しました。同学部は昭和38年に「工学部」として創設以来、科学技術の発展や変化する社会のニーズをとらえた最先端の教育・研究を実践し、有能な技術者育成に努めてきました。2007年4月には、理工学部を改組し「1学科6学系」の教育システムを構築。各学系の有機的な連携により幅広い領域を学ぶこともでき、新しい時代に挑戦する人材育成を図っています。

格付評価は昨年に続き「AA-」／「安定的」を取得

学校法人国士館は、2013年4月19日付けで株式会社日本格付研究所(JCR)より、昨年に引き続き長期発行体格付による「AA-(ダブルAマイナス)」の格付けを取得し、格付けの見通しは「安定的」と評価されました。

「AA-」は、10等級ある格付けの上から2番目(AAレンジ)に位置し、「債務履行の確実性は非常に高い」とされています。本法人は、今後も教育・研究の質の向上に努め、社会に積極的な貢献を果たすため一層の努力を続けてまいります。



学生・生徒数 大学院・学部

()は女子内数

大学院	
修士課程	219 (63)
博士課程	54 (17)
小計	273 (80)
学部	
	13,373 (3,240)
大学院・学部合計	13,646 (3,320)

大学院

専攻	学生数	
	修士課程	博士課程
政治学研究科 政治学専攻	16 (10)	10 (4)
経済学研究科 経済学専攻	22 (6)	7 (2)
経営学研究科 経営学専攻	21 (12)	2 (2)
スポーツ・システム研究科 スポーツ・システム専攻	39 (13)	8 (1)
救急システム研究科 救急救命システム専攻	8 (1)	4 (2)
救急救命システム専攻(1年コース)(修)	6 (1)	-
工学研究科 機械工学専攻(修)	7 (0)	-
電気工学専攻(修)	17 (0)	-
建設工学専攻(修)	16 (2)	-
応用システム工学専攻(博)	-	10 (0)
法学研究科 法学専攻	28 (6)	3 (0)
総合知的財産法学研究科 総合知的財産法学専攻(修)	5 (0)	-
人文学研究科 人文学専攻	9 (1)	3 (1)
教育学専攻	3 (0)	1 (0)
グローバルアジア研究科 グローバルアジア専攻(修)	22 (11)	-
グローバルアジア研究専攻(博)	-	6 (5)
大学院計	219 (63)	54 (17)

学部

学部	学科	学生数	学部別合計		
政経学部	政治学科	839 (128)	3,013 (515)		
	フレックスA	3 (0)			
	フレックスB	1 (0)			
	経済学科	1,789 (280)			
	フレックスA	2 (0)			
	フレックスB	7 (0)			
体育学部	経営学科	372 (107)	2,423 (563)		
	体育学科	1,022 (158)			
	武道学科	352 (74)			
	スポーツ医科学科	655 (145)			
	こどもスポーツ教育学科	394 (186)			
理工学部	理工学科	1,559 (207)	1,559 (207)		
法学部	法律学科	963 (246)	1,920 (456)		
	現代ビジネス法学科	957 (210)			
文学部	教育学科	教育学専攻	225 (102)	1,777 (672)	
		倫理学専攻	152 (55)		
		初等教育専攻	182 (103)		
		史学地理学科	考古・日本史学専攻		308 (128)
	東洋史学専攻	164 (34)			
	地理・環境専攻	283 (52)			
	文学科	中国語・中国文学専攻	134 (40)		
		日本文学・文化専攻	329 (158)		
	21世紀アジア学部	21世紀アジア学科	1,761 (570)		1,761 (570)
	経営学部	経営学科	920 (257)		920 (257)
学部計		13,373 (3,240)			

高等学校・中学校

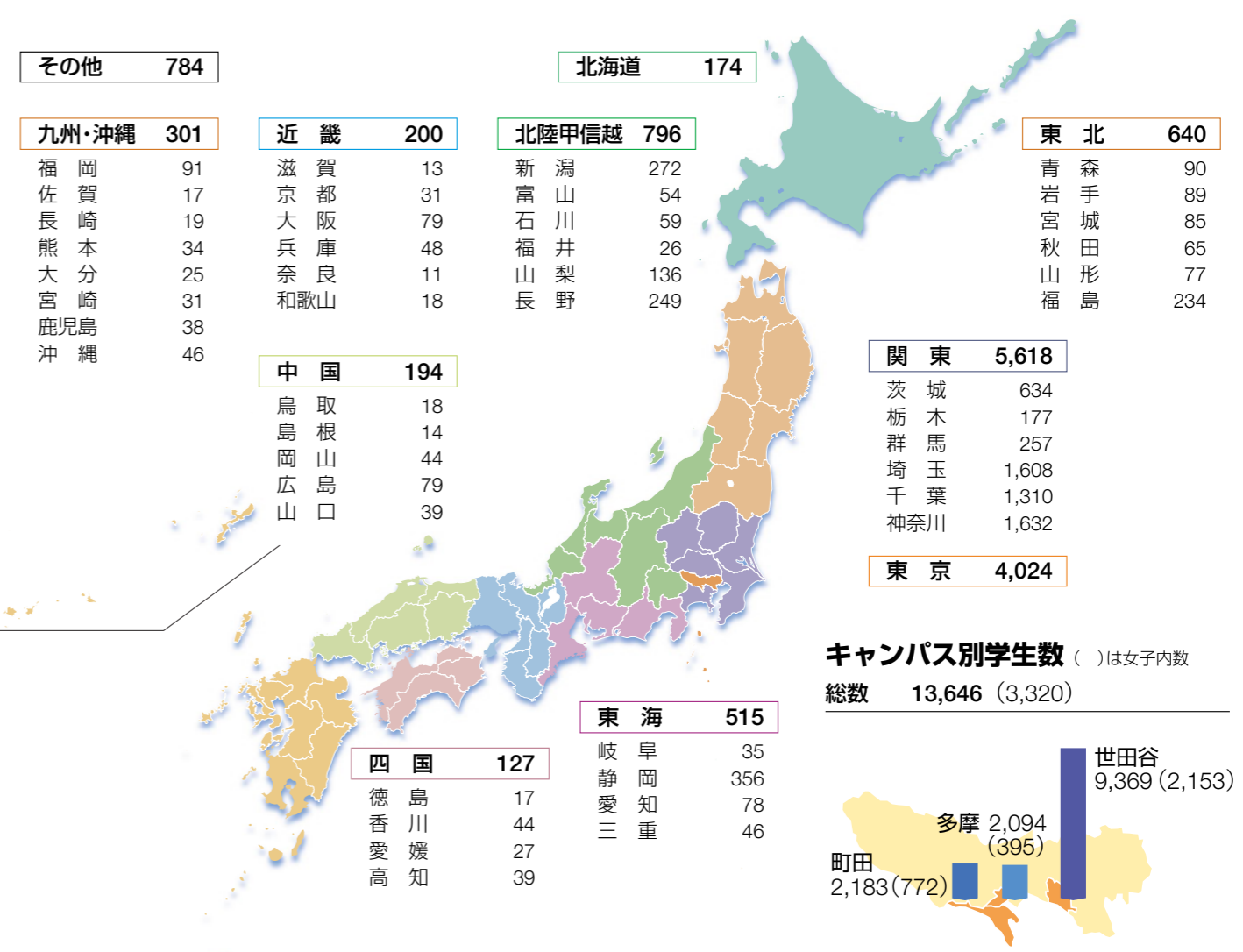
高等学校		生徒数
全日制		759 (235)
定時制		178 (40)
通信制		197 (71)
計		1,134 (346)
中学校		計
		113 (29)

学生数1万人規模の大学

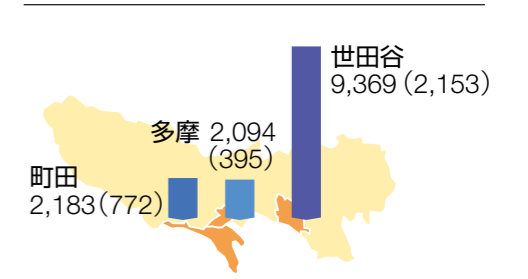
平成24年度の文部科学省の統計によると、全国783大学(国立86校、公立92校、私立605校)中、1万人を超える学生が在籍している私立大学は42校、そのひとつが本学です。

*学生・生徒数は「学校法人基礎調査」(5/1現在)に基づいています。

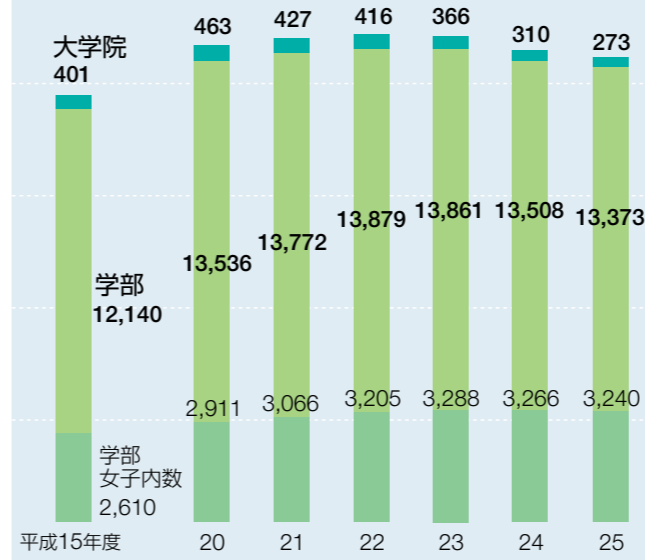
出身高等学校所在都道府県別学部生数



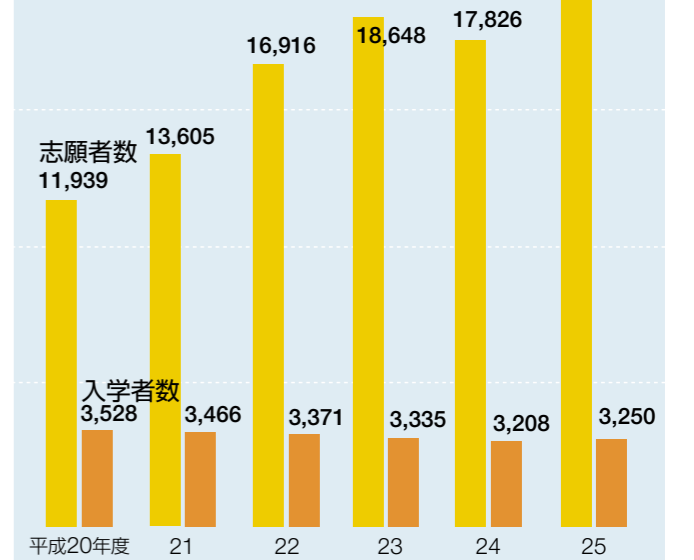
キャンパス別学生数 ()は女子内数



学生数推移



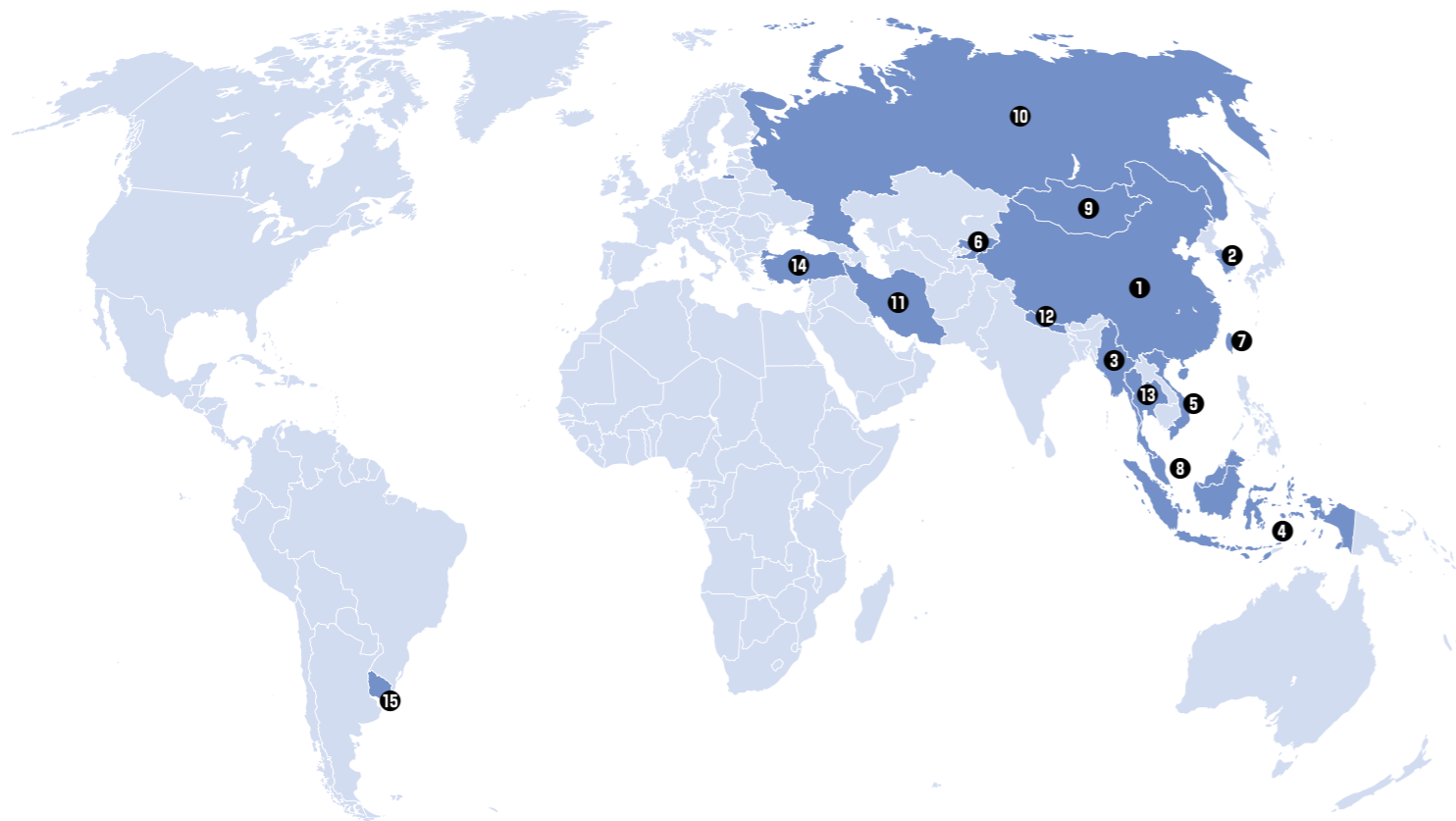
学部志願者・入学者数推移



出身国(地域)別留学生数

※正規課程在籍留学生数

	大学院(修)	大学院(博)	政経学部	体育学部	理工学部	法学部	文学部	21世紀アジア学部	経営学部	合計
①中国	51	11	120		73	19	19	303	40	636
②韓国	2		25		6	1	1	41	6	82
③ミャンマー	1		2					8		11
④インドネシア	3	5						1		9
⑤ベトナム	3		2	1	1	1		1		9
⑥キルギス								6		6
⑦台湾			2		1			3		6
⑧マレーシア					2					2
⑨モンゴル			2							2
⑩ロシア		1						1		2
⑪イラン		1								1
⑫ネパール								1		1
⑬タイ								1		1
⑭トルコ					1					1
⑮ウルグアイ	1									1
合計	61	18	153	1	84	21	20	366	46	770



卒業・修了生数累計

	学部等	設置年	平成24年度卒業・修了生数	累計
大学院	修士課程	昭和40(1965)年～	112	2,903
	博士課程	昭和40(1965)年～	6	110
	計		118	3,013
学部	政経学部※	昭和36(1961)年～	870	34,260
	政経学部二部	昭和40(1965)年～平成19(2007)年	-	13,034
	体育学部	昭和33(1958)年～	573	20,316
	工学部	昭和38(1963)年～	3	12,379
	理工学部	平成19(2007)年～	270	791
	法学部	昭和41(1966)年～	408	13,867
	文学部	昭和41(1966)年～	384	18,796
	21世紀アジア学部	平成14(2002)年～	405	3,242
	計		2,913	116,685
高等学校	全日制	昭和23(1948)年～	269	14,920
	定時制	昭和23(1948)年～(旧制・商業科含む)	59	2,084
	通信制	平成12(2000)年～	89	987
	工業科		-	1,784
	計		417	19,775
中学校	旧制	大正12(1923)年～昭和23(1948)年	-	1,403
	新制	昭和22(1947)年～	40	2,116
	計		40	3,519
福祉専門学校		平成7(1995)年～18(2006)年	-	333
その他(短期大学等)			-	8,863
合計			3,488	152,188

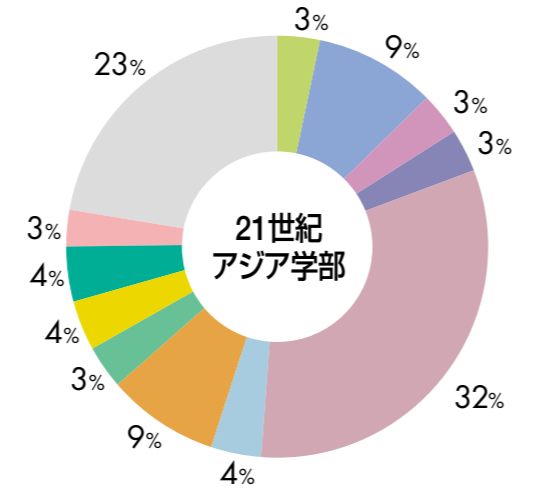
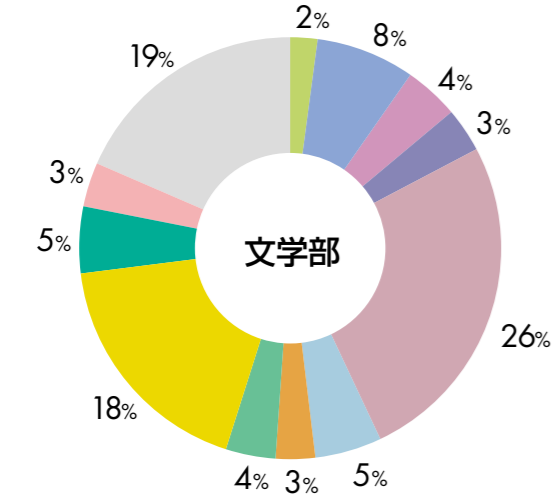
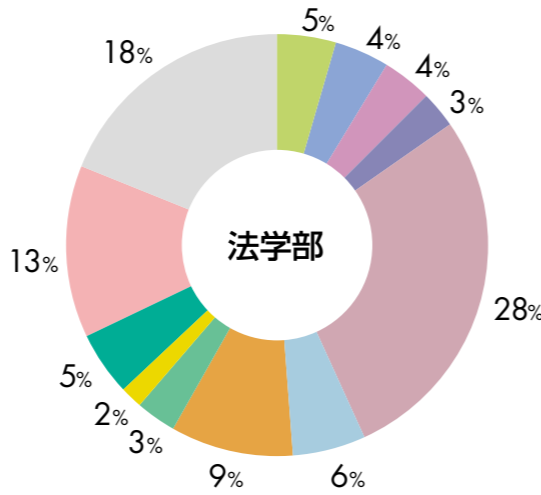
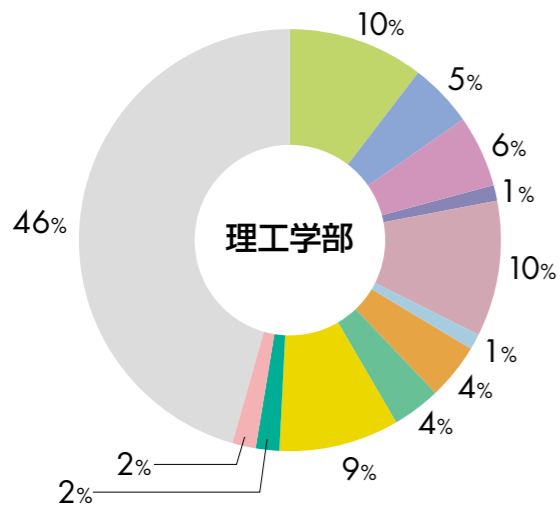
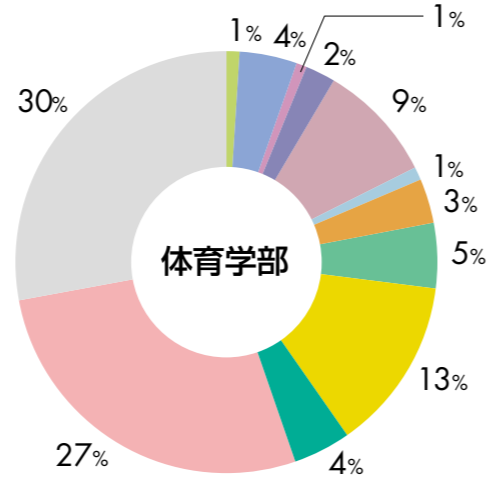
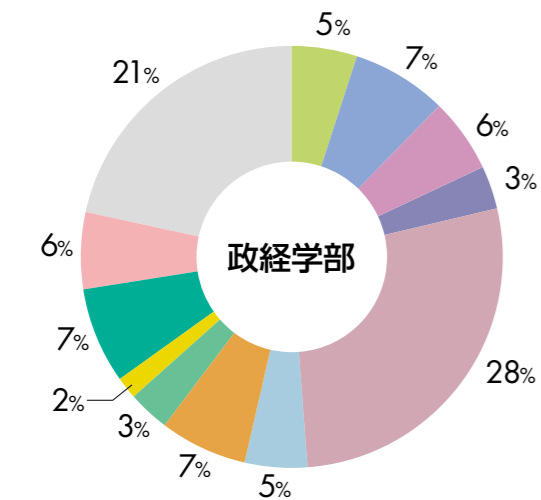
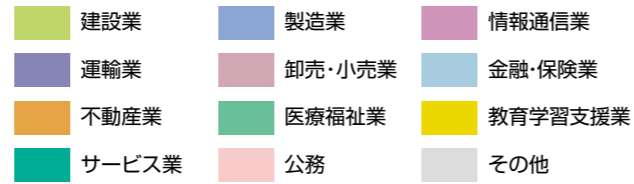
※政経学部一部含む

博士学位授与者数

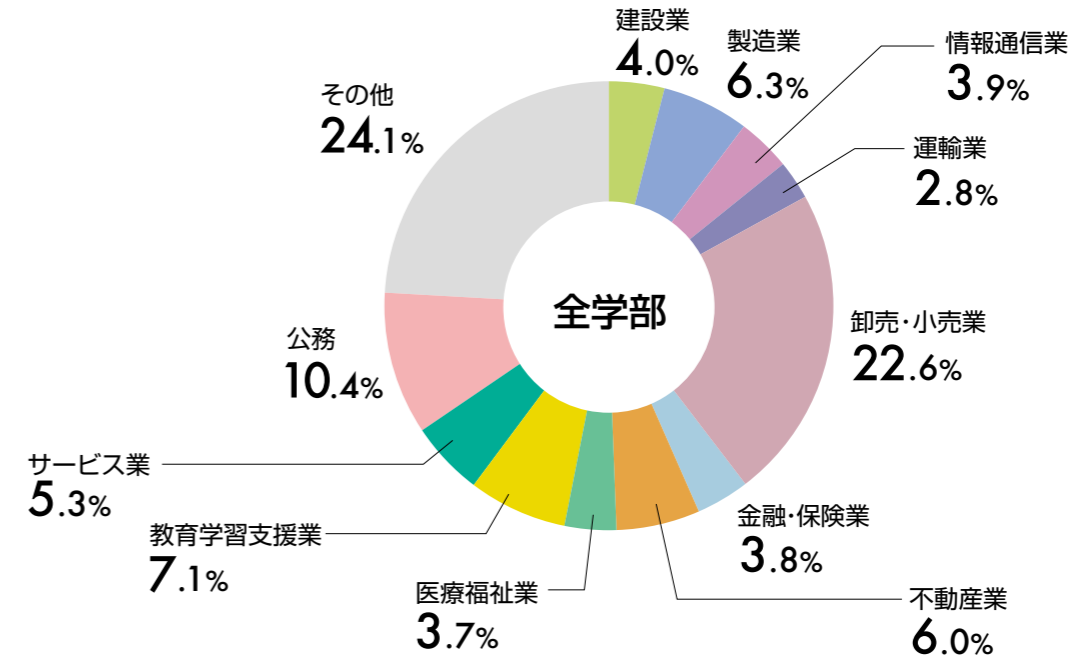
区分	平成24年度	累計
課程博士授与者数	7	29
論文博士授与者数	3	35
合計	10	64



業種別就職状況 (平成24年度)



全学部 業種別就職状況 (平成24年度)



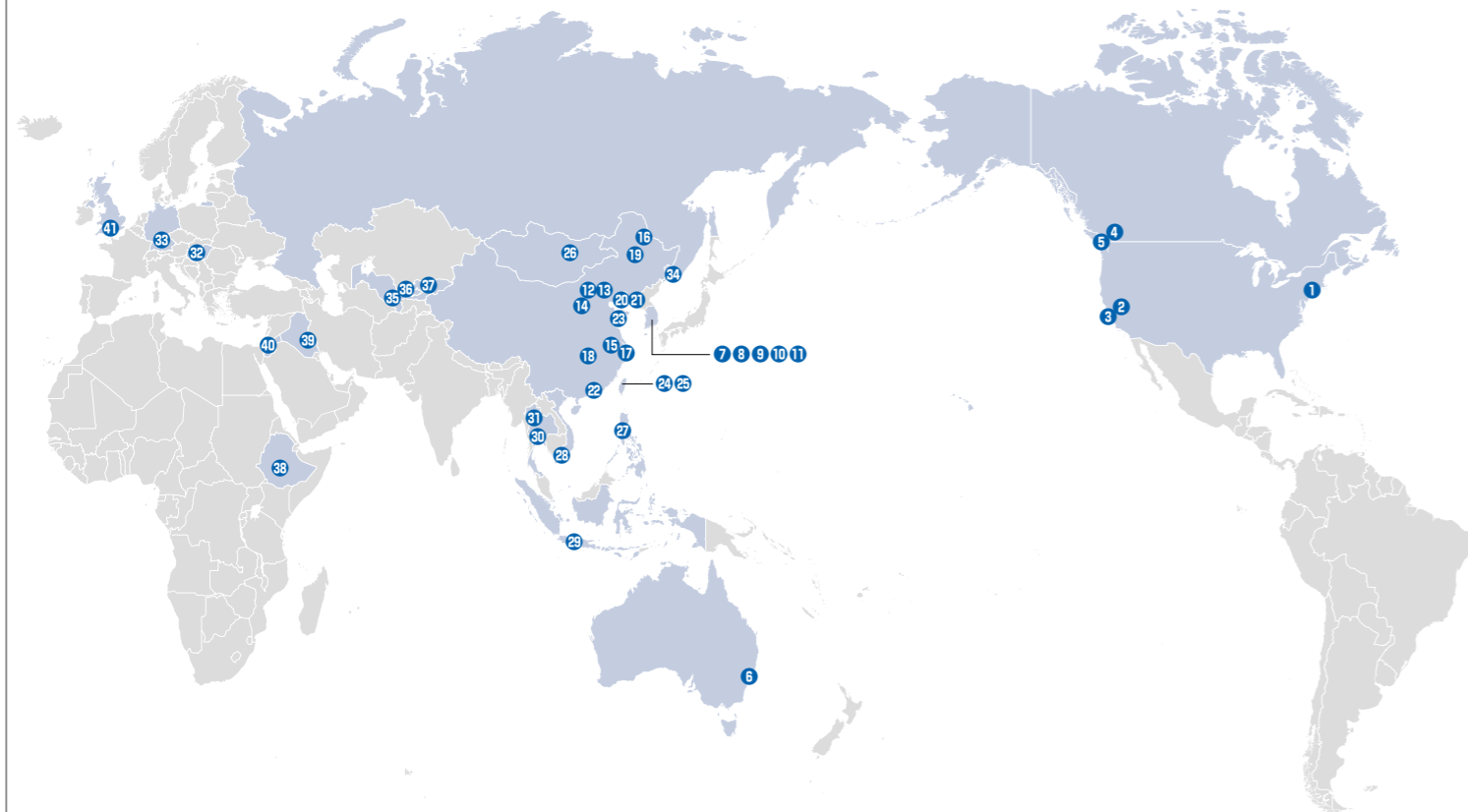
主な就職先 (平成24年度)

政経学部 積水ハウス(株) 赤城乳業(株) (株)ワールド 科研製薬(株) 小田急電鉄(株) 北海道旅客鉄道(株) 日本トイザラス(株) 中央労働金庫 三浦藤沢信用金庫 (株)常陽銀行 (株)東日本銀行 大和ハウス工業(株) (株)ディリースポーツ案内広告社 (株)ニトリ (株)スターダストプロモーション 自衛隊 各都道府県警察 各地の消防 公立学校教員 都道府県市区町村公務員	体育学部 (株)東芝 (株)テレビ山梨 東日本旅客鉄道(株) (株)はとバス (株)クワザワ エビス建販(株) (株)みずほフィナンシャルグループ さがみ信用金庫 (株)アクティオ 旭化成(株) (株)プリンスホテル (株)ベストプライダル ボカ・ジュニアーズ日本支部 横浜マリノス(株) 総合警備保障(株) 自衛隊 警視庁ほか各都道府県警察 東京消防庁ほか各地の消防 公立私立学校教員 都道府県市区町村公務員	理工学部 ホクト(株) 新生テクノス(株) 清水建設(株) (株)鴻池組 日本製線(株) 文化シヤッター(株) ジェイ・アール・シー特機(株) (株)ケーヒン (株)東計電算 (株)巴商会 山梨信用金庫 (株)アビスト (株)日能研 三菱化学メディエンス(株) (株)東京勤労者医療会 (株)上尾中央医科グループ協議会(AMG) 自衛隊 警視庁ほか各都道府県警察 公立私立学校教員 都道府県市区町村公務員	法学部 花王(株) (株)テレビ朝日 (株)たけでん (株)あさひ (株)マミーマート (株)三井住友銀行 (株)武蔵野銀行 飯能信用金庫 (株)みちのく銀行 (株)ディアース・ブレイン (株)静岡銀行 リゾートトラスト(株) 日本郵便(株) (株)マイナビ 国税庁 自衛隊 各都道府県警察 各地の消防 公立学校教員 都道府県市区町村公務員	文学部 (株)かね貞 東京高山山崎(株) トヨタ自動車(株) (株)メディアニエニエ サンコーインダストリー(株) 関東日本フード(株) (株)大家家具 森久保薬品(株) 日清医療食品(株) (株)みずほフィナンシャルグループ 丸三証券(株) 世田谷信用金庫 (株)丸八真綿 エイベックスマネジメント(株) 東武トラベル(株) 近畿日本ツーリスト(株) 自衛隊 各都道府県警察 各地の消防 公立私立学校教員 都道府県市区町村公務員	21世紀アジア学部 (株)サマンサタバサジャパンリミテッド (株)河合楽器製作所 大同信号(株) 日産自動車(株) (株)丸和運輸機関 全日本空輸(株) 富山県並行在来線準備(株) アークランドサカモト(株) さわやか信用金庫 七島信用組合 東京信用金庫 飛騨信用組合 積水化学工業(株) (株)映像センター (株)エイチ・アイ・エス 中国大連国際空港 各都道府県警察 各地の消防 公立私立学校教員 都道府県市区町村公務員
---	--	---	---	---	--



海外協定校 ◆海外研修校

地域	所在地	大学名	地域	所在地	大学名
① アメリカ	ニューヨーク	セント・ジョンズ大学	②③ 中国	広東省	深圳職業技術学院
②	カリフォルニア デビス	カリフォルニア大学デビス校◆	④	山東省	青島大学
③	カリフォルニア サンフランシスコ	サンフランシスコ州立大学	⑤ 台湾	台北市	中国文化大学
④ カナダ	ブリティッシュコロンビア ファーニー	カレッジ・オブ・ザ・ロックーズ	⑥	高雄市	国立中山大学
⑤	バンクーバー	サイモン・フレザー大学◆	⑦ モンゴル	ウランバートル	モンゴル国立大学
⑥ オーストラリア	ブリスベン	グリフィス大学◆	⑧ フィリピン	マニラ	デ・ラ・サール大学
⑦ 韓国	ソウル	漢陽大校	⑨ ベトナム	ホーチミン	ベトナム国家社会人文科学大学(USSH)
⑧	釜山	東義大校	⑩ インドネシア	ジョグジャカルタ	ガジャマダ大学
⑨	慶尚北道	国立安東大校	⑪ タイ	バンコク	チュロンコン大学
⑩	ソウル	高麗大校	⑫	チェンマイ	チェンマイ大学
⑪	光州	国立全南大校◆	⑬ ハンガリー	ブダペスト	サマルバイス大学
⑫ 中国	北京市	北京師範大学	⑭ ドイツ	ミュンヘン	ミュンヘン大学
⑬	北京市	北京工業大学◆	⑮ ロシア	ウラジオストク	極東連邦大学
⑭	山西省	山西大学	⑯ ウズベキスタン	サマルカンド	国立サマルカンド外国語大学
⑮	江蘇省	蘇州大学	⑰	タシケント	世界経済外交大学
⑯	黒龍江省	黒龍江大学	⑱ キルギス	ビシュケク	キルギス国立民族大学
⑰	上海市	上海対外貿易学院	⑳ エチオピア	アディス・アベバ	アディス・アベバ大学
⑱	湖北省	武漢大学	㉑ イラク	バグダッド	イラク国考古遺産庁
⑳	吉林省	吉林大学	㉒ ヨルダン	イルビド	ヤルムーク大学
㉑	遼寧省	大連外国語大学	㉓ イギリス	ポーツマス	ポーツマス大学◆
㉒	遼寧省	大連東軟信息学院			



科学研究費補助金交付額 (平成25年度)

種目	件数	金額 (千円)
基盤研究 (A)	2	14,300
基盤研究 (B)	5	23,140
基盤研究 (C)	21	30,550
挑戦的萌芽研究	2	3,120
若手研究 (B)	5	5,980
計	35	77,090

科学研究費補助金

科学研究費補助金とは、我が国の学術を振興するため、人文・社会科学から自然科学まであらゆる分野にわたり、基礎から応用までの独自の・先駆的な研究を進展させることを目的とした、文部科学省及び日本学術振興会が交付を行っている「競争的研究資金」です。

外部資金受入状況 (平成24年度)

区分	件数	受入額 (千円)
受託研究	5	5,400
奨学寄附金	6	3,050

受託研究

企業等から委託を受けて本学の研究者が行う研究

奨学寄附金

企業や篤志家などから寄附金を受け入れて、学術研究や教育の充実・発展に活用する制度

財務状況 平成24年度 資金収支計算書

収入の部		決算額 (百万円)
科目		
学生生徒等納付金・手数料収入		16,110
寄付金収入		45
補助金収入		1,668
その他の収入		12,825
資金収入調整勘定		△5,097
前年度繰越支払資金		10,897
収入の部合計		36,448

支出の部

科目	決算額 (百万円)
人件費支出	10,420
教育研究経費支出	4,482
管理経費支出	1,044
施設・設備関係支出	4,341
その他の支出	7,557
資金支出調整勘定	△1,397
次年度繰越支払資金	10,001
支出の部合計	36,448

平成24年度 消費収支計算書 (帰属収入構成比率)

科目	決算額 (百万円)	比率
学生生徒等納付金・手数料	16,110	84.6%
寄付金	66	0.3%
補助金	1,668	8.8%
その他	1,198	6.3%
帰属収入合計	19,042	100.0%
基本金組入額合計	△1,212	-6.4%
消費収入の部合計	17,829	93.6%
帰属収支差額 (参考)	451	2.4%

消費支出の部

科目	決算額 (百万円)	比率
人件費	10,748	56.4%
教育研究経費	6,258	32.9%
管理経費	1,335	7.0%
その他	249	1.3%
消費支出の部合計	18,591	97.6%
当年度消費支出超過額	763	-
前年度繰越消費支出超過額	16,702	-
翌年度繰越消費支出超過額	17,465	-

貸借対照表 (平成25年3月31日現在)

資産の部		金額 (百万円)
科目		
固定資産		59,481
有形固定資産		(45,244)
その他の固定資産		(14,237)
流動資産		12,655
資産の部合計		72,136

負債・基本金・消費収支差額の部

科目	金額 (百万円)
固定負債	9,702
流動負債	5,791
基本金	74,108
翌年度繰越消費支出超過額	17,465
合計	72,136

表中の決算額は、百万円未満を四捨五入しているため、合計金額が計算上一致しない場合があります。

大学

学部

- 政経学部
- 体育学部
- 理工学部
- 法学部
- 文学部
- 21世紀アジア学部
- 経営学部

大学院

- 政治学研究科
- 経済学研究科
- 経営学研究科
- スポーツ・システム研究科
- 救急システム研究科
- 工学研究科
- 法学研究科
- 総合知的財産法学研究科
- 人文科学研究科
- グローバルアジア研究科



現存する1919年に建てられた大講堂（世田谷キャンパス）

平成25年度 大学の学年暦

平成25年	
4. 1 (月)	4月入学者学年開始
4. 1 (月)	4月入学式
4. 2 (火)	4月新入生オリエンテーション及び履修登録
4.10 (水)	↓
4. 2 (火)	学生定期健康診断期間
4.10 (水)	↓
4.11 (木)	春期授業開始
7.24 (水)	春期定期試験
7.30 (火)	↓
7.30 (火)	春期授業終了
7.31 (水)	夏季休業
9.22 (日)	↓
9.15 (日)	9月入学者学年終了
9.20 (金)	9月卒業式
↓	
9.16 (月)	9月入学者学年開始
9.17 (火)	9月入学者オリエンテーション及び履修登録
9.19 (木)	↓
9.20 (金)	9月入学式
9.23 (月)	秋期授業開始
9.26 (木)	学生定期健康診断（9月入学生のみ）
10.19 (土)	鶴川祭（10月19日町田キャンパスのみ休講）
10.20 (日)	↓
11. 2 (土)	楓門祭（11月2日世田谷キャンパスのみ休講）
11. 3 (日)	↓
11. 4 (月)	創立記念式典
11.16 (土)	多摩祭（11月16日多摩キャンパスのみ休講）
11.17 (日)	↓
12.23 (月)	冬季休業
↓	
平成26年	
1. 5 (日)	↓
1.23 (木)	秋期定期試験
1.29 (水)	↓
1.29 (水)	秋期授業終了
3.20 (木)	3月卒業式
3.25 (火)	在校生ガイダンス
3.31 (月)	↓
3.31 (月)	4月入学者学年終了

学長挨拶



国士館大学 学長
三浦 信行

みうら・のぶゆき

1942年宮城県生まれ。1971年国士館大学大学院政治学研究科政治学専攻博士課程修了、1972年政治学博士（国士館大学）

1971年本学に奉職。1984年政経学部二部教授、1987年から1992年まで同学部学部長、1992年から1994年まで国士館大学兼国士館短期大学副学長、1994年から2003年まで国士館大学兼国士館短期大学学長、同年学校法人国士館理事 2003年学校法人国士館教学顧問

2012年12月国士館大学学長に就任。同年学校法人国士館理事、同評議員

このほか、2009年から世田谷区特別職報酬等審議会会長、2011年から日本法政学会理事長、2013年からみやぎ絆大使

専門は政治学

国士館大学の源流は、創立者・柴田徳次郎が1917年、東京・麻布の地に人材育成の教育道場を創設したことに由来します。吉田松陰の精神を範とする創立者らは1919年、松陰神社に隣接する現在の世田谷に拠点を移しました。爾来、96年を経て、いまや12万を超える卒業生を社会に送り出す総合大学へと大きく発展しました。

国士館の「国土」とは、「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材」であり、本学は「誠意・勤労・見識・気魄」の四徳目を兼ね備える教育を理念とし、社会のリーダーたる国土の養成を目指しています。

創立100周年の佳節を4年後に迎えるにあたり、2008年世田谷キャンパスに梅ヶ丘校舎を新設するなど、記念整備事業は着々と進展しており、2013年4月に複合施設「メイプルセンチュリーホール」を開設いたしました。「心と体の健康」がテーマの体育施設と文化施設が融合した新しい学舎で、学生諸君には心身ともに豊かな時間を過ごしてほしいと願っています。

さて、混迷の様相を深くする今日、受験世代人口の減少による「大学淘汰」の波は、生き残りをかけた大学改革を要請しています。多様な学生を受け入れる大学にあって、学士課程の入口では教育の質を保証するシステムの再構築、出口ではキャリア教育をはじめ、生涯にわたり学び続け、主体的に考える力をもった人間力の育成が強く求められています。

そこで、時代の変化に鋭敏かつ迅速に対応する効果的なガバナンスのもとに未来への確固たる礎を築くため、次の二点を軸に改革に取り組みます。第一に、グローバル化時代のいまこそ、創造性と活力みなぎる若き人材群を、吉田松陰に有縁のこの地より、日本のみならずアジアや世界へと輩出します。

第二に、社会変化に応じた魅力あふれる学部ならびに大学院教育を再構築するため、既存の学部等の改革と教育・研究環境の充実を強力に進め、本学の将来構想の具体化に向けた改革プログラムを多角的に実行します。

本学の輝かしき歴史と伝統を堅持しつつ、進取果敢の精神で次なる100年に向けた創造的かつ持続可能な未来を切り拓くため、教職員が一体となった教学主導の責任体制を確立していく所存です。

東日本大震災は、被災地に多くの犠牲をもたらしました。本学の教育・研究の成果を復興支援に役立てることは、「世のため、人のために為す」ことを教育理念に掲げる国士館の使命と考えます。これからも次代を担うたくましい人材を輩出するべく全力で取り組んでまいります。

学びの多様性、そして学ぶ魅力に満ちあふれた7学部。
知識の吸収だけでなく人格の陶冶を図ることを重んじ、
人材育成に力を入れています。



理工学部

■理工学科
学部長 福田 勇

世田谷

6学系を有機的に連携させた柔軟な履修体系

本学部は、「1学科6学系」という教育システムを採用しています。機械工学系、電子情報学系、建築学系、都市ランドスケープ学系、健康医工学系、基礎理学系の6学系を有機的に連携させることで、各自が自分の将来を考慮して履修計画を立案し、それに沿って学べる内容になっており、自身の夢の実現に向けて、学系を越えた科目を履修することが可能です。また、入試についても、入学時に学系を指定する従来の方式に加えて、2年次に進級する際に学系を選択できる「フレキシブル入試」を採用しています。

政経学部

■政治学科
■経済学科
■経営学科 (2011年度から募集停止)
学部長 青木俊介

世田谷

現代経済社会に即応する実践型人材を養成

現代経済社会の時代に即応したトップマネジメント及びミドルマネジメントの中心的役割を担うべく、人間性に富み、かつ政治・経済分野の問題解決に柔軟に対応できる力を持つ実践型人材の養成に努めています。教育制度の充実も継続的に図っており、半年ごとに授業が終了する Semester 制の導入や、科目履修の選択の幅を広げるため、他学科カリキュラムを自由に選択できるカリキュラム履修フレックス制などを導入しています。また、きめ細かい学生指導が行えるように2学科共通で1年次から4年次までの4年間を通した小クラスゼミナールにも力を注いでいます。

体育学部

■体育学科
■武道学科
■スポーツ医科学科
■こどもスポーツ教育学科
学部長 渡辺 剛

多摩・町田

スポーツの発展と振興の一翼を担う

本学部は、体育の指導者をはじめ、オリンピックや国際大会で活躍する選手など、優れた人材を多数輩出してきました。2000年には既存の体育学科に加え、社会の高齢化や健康意識の高まりに応えるため武道学科とスポーツ医科学科を、2008年にはこどもスポーツ教育学科を設置しました。体育学科は「心技体」のバランスのとれた人材を育成、武道学科は豊かな武道精神や倫理観の習得、スポーツ医科学科は救急救命士になるための知識と技術の習得、こどもスポーツ教育学科は身体だけではなく心の教育・人間性の育成にも貢献できる指導者を目指し、知識の習得に努めています。



法学部

■法律学科
■現代ビジネス法学科
学部長 渡辺 中

世田谷

法的思考力を身につけた各界のリーダーとなりうる人材を養成

法律学科では、市民生活に密接にかかわる法律を中心に学びます。現代ビジネス法学科では、ビジネスの現場に不可欠な法律や知的財産に関連する法律などを学びます。2学科体制により、国際化、情報化、少子・高齢化という社会の変化のなかで法律学が直面している様々な問題(環境・ビジネス・雇用・消費者・男女共同参画など)を見据えた多様なカリキュラムが可能になっています。また、各種資格試験や公務員試験などの受験ニーズに対応する指導も一層充実させています。



文学部

■教育学科
■史学地理学科
■文学科
学部長 枝村亮一

世田谷

21世紀に必要な人文科学の諸分野を徹底した少人数教育で学ぶ

文・史・哲のそろう文学部は、教育学科(教育学専攻、倫理学専攻、初等教育専攻)、史学地理学科(考古・日本史学専攻、東洋史学専攻、地理・環境専攻)、文学科(中国語・中国文学専攻、日本文学・文化専攻)の3学科8専攻からなり、21世紀に必要な人文科学の諸分野を幅広く学ぶことが可能になっています。「一人ひとりの顔が見える教育」を重視して、1クラス10人以下のゼミで徹底した少人数教育を実施しています。また、本学部では外国人留学生在が日本の歴史・文化・環境を総合的に考究し、国際理解を深めるために学んでおり、本学部からも交換留學生を派遣するなどの活発な国際交流を行っています。



21世紀アジア学部

■21世紀アジア学科
学部長 梶原景昭

町田

21世紀の新しい時代にふさわしい人材の養成

この学部は、これからの時代と社会が求める能力を養成する学部です。今必要なことはこれまでどおりの生半可な知識や資格ではありません。総合的なコミュニケーション能力、他者に対する理解力、正しい情報をもとに世間に流されない判断を行う力、アジア諸国を含めて海外のフィールドを経験しグローバル社会に向き合う力など、日本の内外で活躍できる地力を強化する学部です。危機や突発事態に対応するレジリエンス(復元力)を養い、若者の可能性を開花させることがわれわれの希望です。

経営学部

■経営学科
学部長 白銀良三

世田谷

少人数教育を徹底してビジネスリーダーを養成

本学部は、2011年4月に政経学部から独立して開設された学部です。経済の情勢は絶えず動いており、企業を取り巻く環境も日々移り変わっています。こうした時代のなかで変化を受け入れながら常に前向きな戦略を持ってビジネスに携わっていきける能力を本学部では「ビジネス人基礎力」と定義し、在籍4年間で身につけられるよう少人数でのカリキュラムを編成しました。特に、企業の大小を問わずビジネスシーンにおいて英語を活用する機会が飛躍的に増えているため、本学部では外国語の必修科目として英語に重点を置いているほか、中国語講座も開講しています。

時代に応える高度な知識と技術を備えた人材を育成。専門的研究をサポートできる環境を備えた10の研究科で、あらゆる研究分野の学生を受け入れる体制を整備しています。

政治学研究科

■政治学専攻
(修士・博士課程)

世田谷

研究科長 佐藤圭一

政治に関する高度な専門知識を実務に活かす人材の養成

半世紀近い歴史を有する本学で最初に開設された研究科です。正統派アカデミズムの伝統を守り、理論的な分析力とその応用力の育成を目的として、憲法、政治理論、地方行政から国際関係など、政治に関する主要分野のほとんどを網羅しています。また、アメリカやアジア・中近東を取り巻く政治環境をテーマにした地域研究にも積極的に取り組み、グローバル化する時代を意識した多彩なカリキュラムを用意し、より高度な識見を備えた研究者・教育者と専門的職業人の養成に努めています。本研究科は、社会人や留学生も積極的に受け入れており、国際的な交流の場ともなっています。

経済学研究科

■経済学専攻
(修士・博士課程)

世田谷

研究科長 藤本公明

歴史、理論、政策の研究とともに実務的な分野も重視

「社会に貢献できる経済分野の専門家の育成」という理念のもとに、在籍者の専門的能力の育成に努めています。修士課程では経済学修士の学位の取得に必要な専門能力の育成及び税理士などの国家資格の取得を目標としています。また博士課程では、経済学博士の学位の取得を目標として、その実現に必要なカリキュラム・科目を充実させています。歴史、理論、政策という経済学の3分野を重点的に研究できるようにカリキュラムを編成しつつ、実務的な分野をも意識した編成となっています。税理士界で活躍する修了生を多数輩出しています。

経営学研究科

■経営学専攻
(修士・博士課程)

世田谷

研究科長 林 倬史

新しいビジネスや組織をダイナミックに構想できる人材を育成

現代はヒト、カネ、情報・知識といった経営資源をグローバルに活用してビジネスを展開する時代です。本研究科は、この時代を生き抜くための幅広い視野や教養を備え、柔軟で豊かな発想力を持って、新しいビジネスや組織をダイナミックに構想できる人材の養成を目指しています。具体的には、学部教育の延長線上に修士課程を位置づけ、専門的な知識の習得を図っています。さらには、資格取得を視野に入れ、幅広くビジネス分野で活躍できる有為な人材の養成にも努めています。そのため、本研究科には社会人やアジア諸国からの留学生も多数在籍しています。

スポーツ・システム研究科

■スポーツ・システム専攻
(修士・博士課程)

多摩

研究科長 青山利春

現代社会が求める体育・スポーツの専門職業人を養成

「スポーツ教育コース」と「スポーツ科学コース」が設置されており、競技スポーツから生涯スポーツまで多種多様なスポーツ事象が研究対象となっています。各自の興味・関心に沿った研究・学習が可能です。日本のみならず、世界各国・地域が抱えるスポーツ教育、学術に関する諸問題をシステムの捉え、それを解決できる高度職業人と専門能力を有する学識豊かな研究者の養成を行っています。将来的には、コーチングの高度な技術や知識を有した人材及び教育、学術など、現代社会が求める体育・スポーツの専門職業人として活躍することができる人材の養成を目指しています。



救急システム研究科

多摩

■救急救命システム専攻
(修士・博士課程)

■救急救命システム専攻
(修士課程/1年コース)

研究科長 島崎修次

世界に通じる病院前救急医療従事者を養成

本研究科は博士課程に救急救命システム専攻、修士課程に救急救命システム専攻と救急救命システム専攻(1年コース)を設けています。病院前救急医療を学問体系化して世界に通じる医療従事者を養成すること、救急救命士を教育するための実技スキルや医学的知識などを身につけること、救急医療分野を支える専門性の高い職業人を養成することを目標として2010年に開設されました。本研究科は、病院前救急医療体制における多種多様な事象を研究対象とし、救急救命士の多様化に対応すべく、あらゆるフィールドで活躍する救急救命士のスキルアップや医学的知識の再構築に努めています。

工学研究科

世田谷

■機械工学・電気工学・建設工学専攻
(修士課程)

■応用システム工学専攻(博士課程)
研究科長 西原 公

科学技術社会を幅広く支える創造性豊かな高度職業人を養成

現代社会は、日常生活のあらゆる場面で科学技術と密接なつながりを持っています。工学の領域においても各分野ごとに高度化が進み、より深い学識と専門的な技術・能力が求められています。本研究科はこうしたニーズに応えるため各専攻に研究分野の柱として専門コースを設け、修士課程においては科学技術社会を幅広く支える創造性豊かな技術者・研究者の養成を目指しています。博士課程では、科学的知識とそれを展開する能力を身につけ、独創性に富む高度な研究能力をもって社会に貢献できる人材の養成を目指し、教育・指導を行っています。

法学研究科

世田谷

■法学専攻
(修士・博士課程)

研究科長 高橋 敏

より高度な法理論及び実務理論を研究・取得する

現代社会は、社会経済環境の複雑化・情報化・国際化に伴い、特殊で複雑な分野横断型の法律問題が提起される機会が増大しています。本研究科は、こうした問題に対応できるよう、研究者養成のほか、時代の要請に応じて最新の法知識や交渉能力を備えた人材や、専門的な法理論や実務理論を研究して法的業務に従事する高度職業人を養成することを目指しています。また、すでに税務・登記・財産管理・家庭・少年問題などの法的職業に従事している方も社会人学生として積極的に受け入れ、より高度な法理論的な事務処理能力を身につけられるよう指導しています。

総合知的財産法学研究科

世田谷

■総合知的財産法学専攻(修士課程)
研究科長 飯田昭夫

知的財産の創造・保護・活用及び紛争処理能力を養成

急速な技術革新や企業活動のボーダーレス化に伴い、特許権侵害など知的財産紛争の件数は増加傾向にあります。本研究科は、こうした問題に対処できるように、独創的なアイデアなど成果物の権利を適切に保護したり、適正な権利の活用や新たな成果物を創造できる知的財産プロフェッショナルの養成を目指して開設しています。知的財産分野を扱う大学院の多くが工学をベースにしていますが、本研究科は法学をベースにしています。「法学教育」を基礎に、知的財産を経営レベルでとらえるための「経営学」と知価を見いだすための「工学教育」を融合させています。

人文科学研究科

世田谷

■人文科学専攻
(修士・博士課程)

■教育学専攻(修士・博士課程)
研究科長 勝田政治

人文科学諸分野におけるより高度な研究能力を養成

本研究科は、本学文学部のカリキュラムを基本にしており、人文科学専攻と教育学専攻の2つのプログラムで構成されています。それぞれが人文科学の諸分野の研究を極めるべく、修士課程と博士課程を開設しています。人文科学専攻では「日本・東洋史学」「日本・東洋文学」「地理・地域論」などの分野を、教育学専攻は「教育学」「教職研究」などの分野が履修できるようになっています。修士課程では研究能力開発とともに時代の要請に応える高度な知見を身につけた職業人の養成を目指し、博士課程では学識豊かな研究者の養成を目指しています。

グローバルアジア研究科

町田

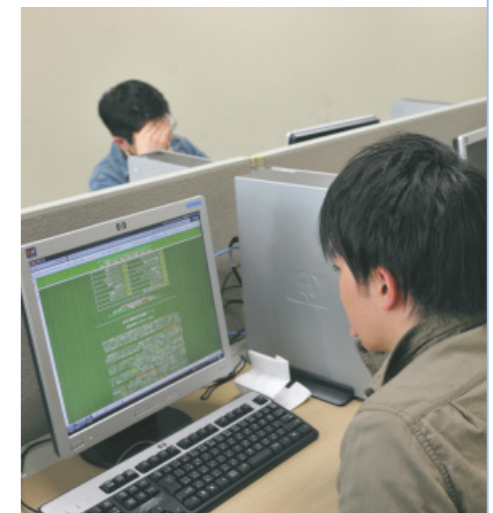
■グローバルアジア専攻(修士課程)

■グローバルアジア研究専攻
(博士課程)

研究科長 小口和美

アジアで活躍する高度職業人と先端研究の専門家を養成

本研究科は、グローバル化が進行するアジア地域を研究対象の中心とし、経済学・経営学・歴史学・国際関係論・言語教育・文化研究・考古学・文化政策論など様々な学問領域との連携・融合を図りながら、総合的かつ先端的研究を行っています。この総合的かつ先端的な視野・視点に基づき、修士課程ではアジアを中心に世界で活躍する実践的な人材の養成を、博士課程では先端的研究の専門家の養成を目指しています。本研究科は、21世紀アジア学部とアジア・日本研究センター、イラク古代文化研究所の学内3機関の連携のもとに教育・研究を進めています。





国士館中学校・高等学校 校長

川野 一成

かわの・かずなり

1944年生まれ、福岡県出身。1966年国士館大学体育学部卒業

1966年国士館中学校・高等学校教諭として奉職、高等学校柔道部を指導

1985年中学校柔道部を設立し監督となり、その後、中学校・高等学校柔道部総監督。その間、中学校・高等学校で幾多の全国制覇を遂げたほか、多くの一流アスリートを育て上げ、全日本選手権・世界選手権・オリンピックにおいて多数のメダリストを輩出

1992年高等学校体育連盟柔道部顧問

2002年国士館中学校・高等学校副校長を経て、2004年同校校長に就任、同年より学校法人国士館評議員

2007年国士館スポーツ振興会会長

本校では「読書・体験・反省」の三綱領を実践し「思索」することで「誠意・勤労・見識・気魄」の四徳目を涵養することを教育理念に掲げています。この三綱領は今で言う「PDCA」(Plan Do Check Action)にあたります。国士館の創立者をはじめとする先人たちは1917年の創立時に、既に今の先取りをしていたのです。

中学・高校で過ごす6年間は、健全な心身を育むうえでとても大切な時期です。本校が一貫して取り組んでいる武道教育により、人としての振る舞いの基本、つまり、人に対する接し方や礼儀作法の習得、あるいは心身の鍛錬によって「生きる力」を養っていくことを目指しています。ただし、決して一方的でなく、生徒の目線で親身になって教えていくことが何より大切だと考えています。教師自らも一緒になって、必死に物事に取り組む姿勢を見せることで、同じ思いや時間を共有することができ、両者の間に信頼と未来を変える力が生まれてくるのです。生徒たちの活力は様々な分野に波及しています。オリンピックアスリートを輩出した柔道・シンクロナイズドスイミング・サッカーはもとより、全国大会出場を誇る運動部の実績はいうまでもありませんが、文化活動においても将棋の第Ⅰ期・Ⅱ期リコー杯女流王座戦での本校生徒の優勝や、作文コンクール「私の主張」においての文部科学大臣奨励賞のほか、書道部・吹奏楽部・美術部なども成果を上げ、高い評価を得ています。

中学校においては、少人数分割授業を実施するとともに、英会話、環境問題や介護体験など多彩な講座を設けています。高校全日課程では、1年次には基礎学力の徹底を図り、2年次からは大学進学率の向上を視野に入れた授業を展開しています。定時制課程・通信制課程では、国士館大学の講義を受講することができます。人間教育の一環として武道や、芸術を組み入れ、個性を引き出していきます。

将来の方向性を見極め、自らの夢へアプローチする第一歩として、中学・高校での生活は重要です。本校で得た知識やさまざまな体験を通して人に対する思いやりの心を醸成し、「生きる力」を持った生徒を育てていきます。情熱がない所には何も生まれません。私たちは愛情と情熱を持って、生徒一人ひとりが持っている能力を最大限に発揮できるよう、あらゆる努力をし、環境を整えていきます。それが本校の役割であり、使命であると考えています。

中学校・高等学校

Junior High School / Senior High School

中学・高校の6年間は、心身の成長とともに、個性や感性を磨く大切な時期です。国士館中学校・高等学校では、中高一貫教育システムにより、学力の向上だけでなく、「こころの教育」を重視。礼儀作法や倫理・道徳観などを身につけながら、社会生活に必要な「生きる力」を養います。

中学校

基礎学力の向上と心の教育を視野に入れたカリキュラム

人格や能力の基礎が養われる大切な中学校時代。本校では、中高一貫制によるゆとりある教育システムにより、生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばすことができるよう、万全の体制で取り組んでいます。カリキュラムは、基礎学力と情操教育を視野に入れて編成。中でも、武道や書道、道徳を授業に取り入れることで、礼儀作法や倫理・道徳観、協調性などを身につけることが可能になります。また、国際化社会に対応できるよう、英語学習にも力を入れています。英語検定準2級の取得を目標とした英語学習を進め、ネイティブスピーカーの講師による英会話の授業を行うことで、実践に活かすことのできる会話力を身につけます。



高等学校

社会で必要とされる人間の育成を目指す

高校の3年間は、希望する進路を見定め、その実現に向けての実力を養ううえで重要な発展期間となります。生徒一人ひとりの適性を磨き、育む教育を目指して学習指導と生活指導の充実を図っています。中学で培った基礎力をベースに学力・体力・精神力、そしてバランス感覚を備えた、「生きる力」を育みながら、それぞれの個性と可能性を引き出すことを重視。知識を詰め込むだけでなく、社会で必要とされる人間の育成を目標に、自ら考え、伸長していける環境づくりを行っています。



全日課程

■普通科

個性を引き出す多彩なコース制

生徒自身が自らの適性を伸ばし、目標を達成できるよう多彩なコース制、豊富なカリキュラムをそろえています。1年次には徹底して基礎力を養成し、2年次には文系・理系を含めた4つのコースから進路を選択します。いずれのコースにも、カリキュラムの中に人間教育の一環として武道(柔道・剣道)、芸術(音楽・美術・書道)を組み入れています。また、月曜日から金曜日の放課後にはより高い学習力の向上を図るための学習サポートの時間を設けています。

定時制課程

■普通科

通信制や大学の講義も受講可能な柔軟なシステム

午後1時始業の昼型3年制、週5日制、2学期制、単位制、クラス制を採用しています。英語を中心とした基礎学力の向上を重視し、通信制課程の授業が受けられる定通併修や国士館大学1・2年次の講義を受けられる高大連携など、柔軟性のあるシステムを取り入れています。

通信制課程

■普通科(AAコース・ICコース)

自分に合った選択が可能な2つのコース

4学期制、年4回の単位認定、74単位以上の修得が卒業条件となる単位制を採用。6週間のスクーリングを行うAAコース、毎学期スクーリングを1週間に集中させることで自由な時間をスポーツや芸能活動などに充てることのできるICコースの2種類のコースから選択でき、自分のペースで学ぶことが可能です。

転入学の場合は、単位修得状況により前籍校の高校生と同年度に卒業することも可能です。

国土館はユニークで水準の高い研究機関を有しており、専門分野をより深く多角的に研究することが可能です。産官学の連携を重視し研究交流の場を提供しています。

イラク古代文化研究所

町田

イラクを中心にユーラシア文化を研究・調査

イラクを中心とするユーラシアの古代文化を解明する目的で1976年に設立。イラク各地の調査を通じて研究成果を上げてきました。1990年以降、「湾岸戦争」「イラク戦争」と報じられる一連の地域紛争のため現地での調査活動は中断していますが、ヨルダン政府の協力を得てユネスコによるイラクの文化遺産環境の復興に貢献しています。さらに、シリア、イラン、サウジアラビア、レバノンでのフィールドワーク、学際的な共同研究や国際交流など、多岐にわたる活動も続けており、これらの成果は、研究所紀要『ラーフィダーン』をはじめ多くの出版物やウェブサイトを通じて発信され、海外の学界でも高い評価を得ています。



武道・徳育研究所

世田谷

武道の研究を通じて人間学を実践・普及

日本の伝統文化として今日に継承される武道の研究を通じ、文武不岐の人間学の実践・普及を目的として1978年に設置されました。真の日本人たる「国士」の養成機関として、建学の精神を重んじた研究機関です。日本文化の研究と継承、21世紀における武道の研究、講演会や研究会などの開催、『武徳紀要』『武・徳』『国士研究会』などの出版物の発行を主な活動としています。また、諸外国との交流や国内外における武道の指導をするほか、近年は障害者武道にも積極的に取り組み、世界平和に貢献し得る人材の育成方法を探究しています。



防災・救急救助総合研究所

多摩

災害・救急教育、研究を通じて地域の防災の取り組みを支援

未曾有の災害となった2011年3月11日の東日本大震災では、発生直後より本学教職員や学生ボランティアによる医療あるいは復興支援など幅広い支援活動を行い、国土館大学の災害支援機関としての社会的認知度が高まりました。近い将来、首都直下型地震も危惧され、防災への意識が高まりつつある中、2012年に設置された当研究所は国内外における防災・救急救助に関する総合的研究や支援活動をはじめ、防災リーダーの育成や地域と連携した防災活動等を行っています。今後、災害拠点大学の機能をもつ本学の研究所として新しいコンセプトのもと、システムの充実に取り組んでいきます。



アジア・日本研究センター

町田

アジア地域の問題を究明し相互理解と共生を目指す

激動するアジアの社会的・文化的現象を学術的に究明し、開かれた研究交流の場を提供すべく2000年に設置された機関です。研究会やワークショップ、シンポジウムなどを開催することで、研究環境の活性化と有機的な研究者ネットワークの構築を目指しています。研究活動の成果は、ホームページ、紀要や出版物などの情報発信によって社会的に還元しています。国際的な学術交流を推進するとともに、アジア地域の相互理解と平和の共生に向けた啓蒙活動や政策提言などへと活動を発展させていくことを目標としています。



ウェルネス・リサーチセンター

多摩

健康増進を図るための総合的な研究活動を実施

一般市民のウェルネス(広義の健康)の確立を目指して2004年に設置されました。高齢者の運動習慣養成プログラムの開発や救急医療研究、各種スポーツ・トレーニング効果の分析など、健康増進に関わる総合的な研究活動を行っています。これらの研究で得られたデータは、高齢者向けスポーツや介護機器の開発、教育方法の開発、指導者および運営者の育成などに役立てられています。また、地域と連携し、スポーツイベントのサポートや小中学生を対象としたキャンプスクール等の野外教育プログラム、健康セミナーも開催しています。



図書館・情報メディアセンター

- 中央図書館・情報メディアセンター
- 鶴川図書館・情報メディアセンター
- 多摩図書館・情報メディアセンター

学術情報サービスの高度化と学修サポートの強化を目指す知的拠点

国士館大学図書館・情報メディアセンターを構成する中央図書館・情報メディアセンター、鶴川図書館・情報メディアセンター及び多摩図書館・情報メディアセンターでは、時代が求める情報リテラシー、すなわち自己や組織に必要な情報を理解し、収集し、分析し、そして発信する力を養うため、統合学習環境を提案し学術情報サービスの高度化を図っている未来型図書館です。

図書・雑誌の所蔵数は約89万冊、図書館内の情報端末機は中央図書館99台、鶴川図書館80台、多摩図書館15台となっています。教育用端末室を全キ



ャンパスに13室(世田谷3、梅ヶ丘7、町田2、多摩1)設置し、800台を超える教育用端末機が利用できます。約半数は仮想デスクトップ配信システム(シンクライアントシステム)の端末機で、これらはすべてインターネットと接続され、学内外のデータベース、e-ジャーナル及び学術リポジトリ「kiss」等の閲覧・収集が可能です。また、各図書館の開館時間の拡大、地域住民の図書館利用または教育用端末室のオープン利用及び24時間365日利用できる情報端末機を設置するなど情報資源の利用向上を図っています。

学術情報サービスの高度化を目指し、本学の収蔵学術資源検索であるOPAC及び論文・講義資料等約8,000件を搭載した学術リポジトリ「kiss」をクラウドシステムへ移築したことによりモバイル機器の利便性が活用できると共に災害時における教育研究支援の継続性も担保されました。

知的生産物を生み出す環境として、せいひつな閲覧環境、グループ学習、視聴覚環境あるいはリフレッシュ環境などを実現しています。一方、デジタルコンテンツ制作機材としてスキャナー、大型カラープリンター及び画像編集機などを導入し、その支援要員を配置することで知的生産性の向上を図っています。

このほかに、国士館大学の基盤ネットワークである「Kaedeネット」を構築・運用し、世田谷・町田キャンパス間及び世田谷・多摩キャンパス間を10Gbitの専用高速回線で接続し、キャンパスの建物間は1Gbitのネットワーク回線を敷設し教育研究を強力に支援しています。また、無線LANのアクセスポイントを70台以上設けるなど、教育研究に多面的支援を行っています。

蔵書数

図書：883,231冊
雑誌：9,058種類

国際交流センター

学術交流、海外派遣、研修受け入れの拠点

国際交流センターは、設立以来、国際社会に対する教育研究活動を通じた学術交流や、学生の海外派遣・研修、外国人留学生の受け入れなどを積極的に行っています。現在、本学は約800人の外国人留学生が在籍しています。本センターは国際交流課と留学生支援課からなり、国際交流課は、世界各国の海外協定校(研修校含む)40大学1研究機関との学術交流や、その他、海外教育・研究機関との交流窓口となり、本学学生の海外留学に際しても、安全かつ安心な海外生活を送ることができるよう、全面的に支援を行っています。



留学生支援課は、外国人留学生に対して、在留、住宅や医療、奨学金等についての情報提供や相談業務、諸手続き

のサポートを行い、安心して勉強に専念できるよう支援しています。

生涯学習センター

学生のスキルアップと市民向けの講座を実施

本学の研究成果や教育機能を広く社会に提供し、学生はもとより一般市民の教育・芸術・学術・文化の発展に貢献することを目的に誕生しました。世田谷・町田・多摩の各キャンパスに事務室を設置してさまざまな事業を展開

しています。学生の就職を視野に入れたスキルアップのための「資格講座」や、幼児からシニアまで幅広い層を対象にした地域貢献を目的とする「公開講座」を開講。さらに、本学を含めた世田谷区内の4大学と世田谷区教育委員会との協働によるeラーニング方式の生涯学習講座「せたがやeカレッジ」も展開しています。



事業展開

資格講座

●各専門学校と提携し、学生のスキルアップと就職のための資格講座を開講しています。資格講座は簿記、パソコン、行政書士、TOEIC®など多岐にわたり展開しています。毎年それぞれの講座から一定の合格者を輩出しています。

公開講座

●幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方が参加できる講座を開講しています。講座は4月から始まる春期、9月から始まる秋期、1月から始まる冬期の3期に分かれ、教養・語学・歴史・パソコン・芸術・健康・スポーツ・武道を開講しています。

せたがやeカレッジ

●本学を含めた世田谷区内の4大学と世田谷区教育委員会が協働して発信する、eラーニング方式の生涯学習サービスです。「いつでも・どこでも・楽しく学べる」生涯学習の実現に取り組んでいます。

教育研究組織図

大学

政治学研究科	政治学専攻(修・博)
経済学研究科	経済学専攻(修・博)
経営学研究科	経営学専攻(修・博)
スポーツ・システム研究科	スポーツ・システム専攻(修・博)
救急システム研究科	救急救命システム専攻(修・博)／救急救命システム専攻(1年コース)(修)
工学研究科	機械工学専攻(修)／電気工学専攻(修)／建設工学専攻(修)／応用システム工学専攻(博)
法学研究科	法学専攻(修・博)
総合知的財産法学研究科	総合知的財産法学専攻(修)
人文科学研究科	人文科学専攻(修・博)／教育学専攻(修・博)
グローバルアジア研究科	グローバルアジア専攻(修)／グローバルアジア研究専攻(博)

政経学部	政治学科
	経済学科
	経営学科 ※2011年度から募集停止
	体育学科
体育学部	体育学科
	武道学科
	スポーツ医科学科
	こどもスポーツ教育学科
理工学部	理工学科 機械工学系／電子情報学系／建築学系／都市ランドスケープ学系／健康医工学系／基礎理学系
	法学部
文学部	現代ビジネス法学科
	教育学科 教育学専攻／倫理学専攻／初等教育専攻
	史学地理学科 考古・日本史学専攻／東洋史学専攻／地理・環境専攻
21世紀アジア学部	文学科 中国語・中国文学専攻／日本文学・文化専攻
	21世紀アジア学科
経営学部	経営学科

附属施設等	国際交流センター
	図書館・情報メディアセンター
	健康管理室

附置研究所等	イラク古代文化研究所
	武道・徳育研究所
	防災・救急救助総合研究所
	アジア・日本研究センター
	生涯学習センター
	ウェルネス・リサーチセンター

高等学校

全日制課程
定時制課程
通信制課程

中学校

事務組織図

学校法人 国士館

理事長室	企画課
	広報課
	国士館創立100周年記念事業推進課

法人事務局	総務部	総務課
	財務部	人事課
		経理課
		管財課
		健康管理室
		町田校舎事務課
		学部学科等設置申請事務課

監査室

募金事務室

国士館史資料室

大学	学長室			
	FD推進室			
	教務部	教務課		
		学術研究支援課		
		大学院課		
	学生部	学生・厚生課		
		寮務課		
	入試部	入学課		
	キャリア形成支援センター	キャリア支援課		
	学部	各学部事務室		
		政経学部	体育学部	理工学部
		法学部	文学部	21世紀アジア学部
		経営学部		

国際交流センター	国際交流課
	留学生支援課
	事務管理課
	第1情報サービス課
	第2情報サービス課
	情報システム課

附置研究所等	イラク古代文化研究所事務室
	防災・救急救助総合研究所事務室
	アジア・日本研究センター事務室
	生涯学習センター事務室

高等学校	高等学校事務室
------	---------

中学校	中学校事務室
-----	--------



世田谷キャンパス

最先端設備が集まる国士館のメイン・キャンパス
 渋谷・新宿から30分の立地ながら、静かな学びの環境

大学院 政治学研究科/経済学研究科/経営学研究科/工学研究科/法学研究科/総合知的財産法学研究科/
 人文科学研究科
 学部 政経学部/理工学部/法学部/文学部/経営学部

- a** 正門受付
- b** 図書館・情報メディアセンター
事務管理課/第1情報サービス課/
情報システム課/多目的ホール
- c** 1号館
理事長室/理事室/企画課/
総務課/人事課/経理課/管財課/
監査室/情報システム課/
学生ラウンジ/学生食堂
- d** 大講堂
- e** 5号館
学長室/副学長室/学部長室/
FD推進室/教務課/
学術研究支援課/学部事務室(政経
学部/理工学部/法学部/文学部/経
営学部)/研究室/教室/
実験・実習室
- f** 6号館
書店/文具店/研究室/教室
- g** 7号館
国際交流センター/
国際交流ルーム/研究室/教室/
実験・実習室
- h** 8号館
広報課/大学院課/入学課/
キャリア形成支援センター/
研究室/教室/実験・実習室/
学生食堂
- i** 10号館
募金事務室/多目的フロア/研究室/
教員コミュニティルーム/教室/
実験・実習室
- j** 24号館
高等学校定時・通信制教員室/
事務室/教室/武道・徳育研究所/
クラブ部室/世田谷寮
- k** 高等学校・中学校校舎
校長室/教員室/事務室/
保健室/図書館/教室
- l** グラウンド
- m** 体育・武道館
剣道場/柔道場/アリーナ/
スカイコート/トレーニングルーム
- n** メイプルセンチュリーホール
- o** 柴田会館
国士館史資料室/
国士館史資料展示室/研修室/
空手道場/同窓会事務局
- p** 国士館大学地域交流文化センター
生涯学習センター/
イラク古代文化研究所展示室/
実験・実習室
- q** 34号館(梅ヶ丘校舎)
学生・厚生課/学生相談室/
健康管理室/研究室/
教員コミュニティルーム/教室/
実験・実習室/学生食堂/
スカイラウンジ/アトリウム/
展示ルーム
- r** クラブ部室
- s** ハイテク・リサーチ・センター棟
- t** 学園祭実行委員会室
- u** 国士館大学ゲストハウス

〒154-8515
 東京都世田谷区世田谷4-28-1
 TEL 03-5481-3111 (代表)
国士館中学校・高等学校
 〒154-8553
 東京都世田谷区若林4-32-1
 TEL 03-5481-3114 (中学校代表)
 TEL 03-5481-3131 (高等学校代表)
 土地面積 56,590m²
 建物面積 109,240m²



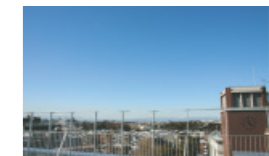
メイプルセンチュリーホール 2013年オープン

国士館創立100周年記念事業の一環として、
 世田谷キャンパスに
 心と体の健康をテーマにした
 複合施設が建設されました。

環境と省エネに配慮

メイプルセンチュリーホールは、地下3階、地上5階建て、延べ床面積約13,000m²。南面と西面は、採光性の高い全面ガラス張り、内部は明るく開放的な空間が広がっています。屋上部に設けた太陽熱温水装置、太陽光パネルで発電し、電力の省力化を図るほか、太陽熱を温水プールの加熱・床暖房、温水シャワーなどに利用しています。また、エネルギー消費の低減を図るため、特に温水プールでは、節水型循環方式を採用。溢れた水の循環利用や利用者の増減に応じた濾過機能の調節により、ポンプ動力を抑制しています。さらに、ダブルスキン構造のガラス面は高断熱製で日射負荷を抑えています。

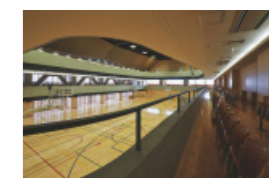
RF 屋上
 体育武道館連絡通路
屋上からの眺め



5F 会議室・ランニングロード
 多目的室
会議室
 最上階・3方向からの採光
 で省エネにも貢献



4F 中教室・アリーナ観覧席
 多目的体育室
アリーナ観覧席
 約360席の観覧席を備える



3F アリーナ・多目的フロア
 救護室・体育武道館連絡通路
アリーナ
 約1,180m²で高い天井を
 誇る。同フロアには隣接
 する体育・武道館の連絡通
 路も有する



2F 柔道場・剣道場
 フィットネスセンター
フィットネスセンター
 約670m²のフロアに80台
 余りの各種トレーニング
 マシンを配備



1F 総合受付
 学生ラウンジ・大教室
学生ラウンジ
 明るい光が差し込む交流
 と憩いの場。約100席



B1F 理工学部実習室
 温水プール観覧席
 理・美容室
理・美容室
 ネイルケアのコーナーも
 備えるアメニティ設備



B2F 理工学部実習室
 温水プール
温水プール
 25m・8コースは日本水泳
 連盟公認。シンク口対応
 の水深3mにも調整可能



B3F 理工学部実習工場
機械実習工場
 騒音に配慮し、地下に設
 備。このほか理工学部各
 学系の実習室を配備





Machida

町田キャンパス

東京・町田の丘陵に広がる、緑が爽やかなキャンパス

大学院 グローバルアジア研究科
学 部 21世紀アジア学部／体育学部(こどもスポーツ教育学科)

〒195-8550
東京都町田市広袴1-1-1
TEL 042-735-3111 (代表)
土地面積 89,832m²
建物面積 35,608m²

- a** 正門受付
- b** 中央広場
- c** 11号館
健康管理室／学生相談室
- d** 12号館
大学院課／イラク古代文化研究所／アジア・日本研究センター／研究室／教室／実験・実習室／学生食堂／鶴川寮
- e** 13号館
キャリア形成支援センター／教室
- f** 14号館
学部事務室(体育学部こどもスポーツ教育学科)／教室／実験・実習室
- e** 15号館
管理室／教室／プール
- h** 30号館
学部長室／学部事務室(21世紀アジア学部)／学生ラウンジ／研究室／教室／実験・実習室
- i** 野球場
- j** クラブ部室A棟
- k** 第2柔道場
柔道場／トレーニングルーム
- l** 第3体育館
剣道場／柔道場／アリーナ
- m** 第4体育館
アリーナ
- n** 鶴川メイプルホール
町田校舎事務課／教務課／生涯学習センター／図書館・情報メディアセンター／学生食堂
- o** 学園祭実行委員会室
- p** 文具・写真店
- q** テニスコート
ゴルフ教場／弓道場
- r** 多目的グラウンド
- s** 多目的グラウンド管理棟
- t** 仮設教室棟
学生・厚生課／国際交流センター



Tama

多摩キャンパス

最新の各種スポーツ施設が整う広大なキャンパス

大学院 スポーツ・システム研究科／救急システム研究科
学 部 体育学部(体育学科・武道学科・スポーツ医科学科)

〒206-8515
東京都多摩市永山7-3-1
TEL 042-339-7200 (代表)
土地面積 162,394m²
建物面積 23,527m²

- a** 教室・管理棟
正門受付／学部長室／学部事務室(体育学部)／学生・厚生課／大学院課／図書館・情報メディアセンター／健康管理室／実験・実習室／学生相談室／研究室／教室
- b** 体育館棟
多目的フロア／体操場／トレーニングルーム／レスリング場／アリーナ1・2／教室
- c** 武道棟
柔道場／剣道場
- d** 教室・研究棟
談話室／研究室／教室
- e** 教室・実習棟
防災・救急救助総合研究所／研究室／教室／実験・実習室
- f** 食堂棟
学生食堂／売店
- e** ゼミ室・研究室棟
キャリア形成支援センター／生涯学習センター／研究室／教室
- h** 学園祭実行委員会室
- i** 相撲教場
- j** ラグビー・アメリカンフットボール場
- k** 多目的グラウンド
- l** テニスコート
- m** 陸上競技場
- n** 管理A棟
- o** 管理B棟
- p** 管理D棟
- q** 野球場
- r** 多摩球心寮



国士館館歌

作詞 柴田徳次郎
作曲 東儀鉄笛

一、霧わけ昇る陽を仰ぎ

梢に高き月を浴び

皇国に殉す大丈夫の

ここ武蔵野の国士館

二、松陰の祠に節を磨し

豪徳の鐘気を澄す

朝な夕なにつく呼吸は

富嶽風の天の風

三、区々現身の粗薪に

大覚の火を打ち点し

三世十方焼き尽す

至心の焔あふらばや

校章 — 全学の総意で決めた「楓」

国士館が麻布 筈 町から、世田谷の松陰祠畔に移ったのは1919(大正8)年。そして、その前年、国士館創設の同人たちは揃って松陰神社に詣でています。激動の幕末期、思想家、教育者として峻烈な生きざまを貫き通した吉田松陰に寄せる彼らの崇敬の念は篤く、新生国士館を松下村塾の系譜を継ぐ学塾に育て上げたいと請い願ったのです。

社の境内には大和魂を表す桜樹と、

松陰の熱き血潮を彩った楓の古木があります。国士館高等部(現在の大学の前身)建学式の朝、初代館長であった柴田徳次郎は、朝日を受けて真紅に映える楓を見て松陰の赤心に思いを致し、楓を校章にと胸中ひそかに意を決したといひます。1920(大正9)年の春になって柴田館長は、その思いを国士学生会(学生の自治組織)に諮り、学生会もまたこれに賛同し、全学の総意によって、校章は「七生報国の士を象徴する七片の楓葉」と決まったのです。



シンボルマークについて

地球を意味する円弧に歴史と将来への希望を表わすエレメントが交差して、英文表記の「Kokushikan」のイニシャル「K」を象っています。多くの人間が集い、その文化や知識、技術が“活発に交流”し、活気に溢れた国士館となるよう、

社会に向かって開かれた学園、オープンでグローバルな学園のイメージを表現しています。カラーは、深紅の楓にも由来し、“情熱”や“喜び”を表すオリジナルカラーの「国士館レッド」です。1997年の創立80周年記念事業の一環として制定されました。








創立者
柴田徳次郎 1890~1973

国士館の創建を支えた人々

国士館創設の頃のわが国は、第一次世界大戦によって一時期、好景気となりましたが、反面、富山県の一漁村の主婦たちが起こした米騒動が、僅か10日あまりの間に全国各地に蔓延するなど、陰うつな世相でした。そのような時代に、柴田徳次郎、阿部秀助、花田大助、喜多梯一、上塚司らの青年有志たちが「青年大民団」を結成します。大民団の目的は「言論」と「教育」をもって国家の繁栄と国民生活の安穩に資することにあり、「言論」では1916(大正5)年6月の雑誌「大民」創刊以来、1945(昭和20)年までよくその役割を果たしました。「教育」については、1917(大正6)年11月、東京・麻布に私塾「国士館」を開設し、1919(大正8)年には世田谷に移って高等部、中等部と本格的な学校を設け、これを起点に今の総合大学国士館へと発展しました。

波瀾の時世、国士館の興隆を支えてきた人は少なくありませんが、先ず挙げなければならないのは、終生、学園経営の責を担ってきた創立者の功業と、国士館創建の四天王として知られる頭山満、徳富蘇峰、野田卯太郎、渋沢栄一存在です。また、中野正剛、緒方竹虎の名も国士館発展の歴史に深く刻みこまれています。

- 1917 大正6年 東京・麻布に私塾「国士館」を創立
- 1919 大正8年 財団法人国士館設置(現在地)
国士館高等部設置(昭和5年3月廃止)
 大講堂完成
- 1923 大正12年 国士館中等部設置(大正14年3月廃止)
- 1925 大正14年 国士館中学校設置(昭和24年3月廃止)
 国士館中学校設置
- 1926 大正15年 国士館商業学校設置(昭和24年3月廃止)
- 1929 昭和4年 国士館専門学校(国漢剣道科・柔道科)設置(昭和30年3月廃止)
 国士館専門学校設置
- 1930 昭和5年 国士館高等拓殖学校設置(昭和9年11月廃止)
- 1942 昭和17年 国士館高等拓殖学校(満蒙支科・南洋科)設置(昭和20年12月廃止)
- 1945 昭和20年 戦禍により校舎焼失
- 1946 昭和21年 名称を至徳学園に変更(至徳専門学校、至徳商業学校、至徳中学校となる)
- 1947 昭和22年 至徳中学校(新制3年制)設置
- 1948 昭和23年 至徳商業高等学校(新制3年制)設置(昭和24年3月廃止)
至徳高等学校(全日制普通科=新制3年制、定時制商業科=新制4年制)設置
- 1951 昭和26年 財団法人至徳学園から学校法人至徳学園に変更

- 1953 昭和28年 至徳学園を国士館の原称に復す(国士館高等学校、国士館中学校となる。専門学校は至徳のまま、昭和30年3月廃止)
国士館短期大学(2年制)設置
国文科・経済科2部設置(経済科2部昭和41年3月廃止、国文科平成15年5月廃止)



国士館短期大学設置

- 1956 昭和31年 短期大学に体育科(3年制)設置(昭和35年3月廃止)

- 1958 昭和33年 国士館大学設置
体育学部(体育学科)設置

- 1961 昭和36年 政経学部(政治学科・経済学科)設置

- 1962 昭和37年 政経学部経営学科設置

- 1963 昭和38年 工学部(機械工学科・電気工学科)設置(平成19年4月理工学部改組、平成25年4月廃止)

- 1964 昭和39年 工学部に土木工学科・建築学科設置
太宰府校地取得(平成25年4月閉鎖)

- 1965 昭和40年 国士館大学大学院設置
政治学研究科・経済学研究科(各修士・博士)設置
政経学部2部(政治学科・経済学科)設置(平成19年3月廃止)

- 1966 昭和41年 鶴川校舎開設
法学部(法律学科)設置
文学部(教育学科・史学地理学科・文学科)設置



鶴川校舎開設

- 1974 昭和49年 教養部設置(平成8年3月廃止)

- 1992 平成4年 多摩校舎開設
体育学部移転



多摩校舎開設



鶴川メイプルホール完成

- 1994 平成6年 大学院に工学研究科(修士)設置
国士館中学校・高等学校男女共学制導入(新校舎竣工)



国士館高等学校・中学校校舎完成

- 1995 平成7年 大学院に法学研究科(修士)設置
国士館大学福祉専門学校設置(平成19年10月廃止)



国士館大学福祉専門学校設置

- 1997 平成9年 大学院に経営学研究科(修士)設置

- 1999 平成11年 大学院経営学研究科・法学研究科・工学研究科に博士課程設置

- 2000 平成12年 体育学部に武道学科・スポーツ医科学科設置
高等学校に通信制課程設置

- 2001 平成13年 法学部に現代ビジネス法学科、大学院にスポーツ・システム研究科(修士)・人文科学研究科(修士)設置
工学部電気工学科を電気電子工学科に名称変更

- 2002 平成14年 21世紀アジア学部設置
工学部機械工学科を機械情報工学科、土木工学科を都市システム工学科、建築学科を建築デザイン工学科に名称変更

- 2003 平成15年 大学院スポーツ・システム研究科・人文科学研究科に博士課程設置
政経学部を昼夜開講制に改組

- 2006 平成18年 大学院に総合的財産法研究科(修士)、グローバルアジア研究科(修士・博士)設置
国士館大学地域交流文化センター竣工

- 2007 平成19年 工学部を改組し理工学部理工学科設置

- 2008 平成20年 世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎(34号館)竣工
体育学部にこどもスポーツ教育学科設置



世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎(34号館)完成

- 2009 平成21年 鶴川キャンパスを町田キャンパスに名称変更

- 2010 平成22年 大学院に救急システム研究科(修士)設置

- 2011 平成23年 経営学部経営学科設置

- 2013 平成25年 世田谷キャンパスにメイプルセンチュリーホール開館
大学院救急システム研究科に博士課程設置

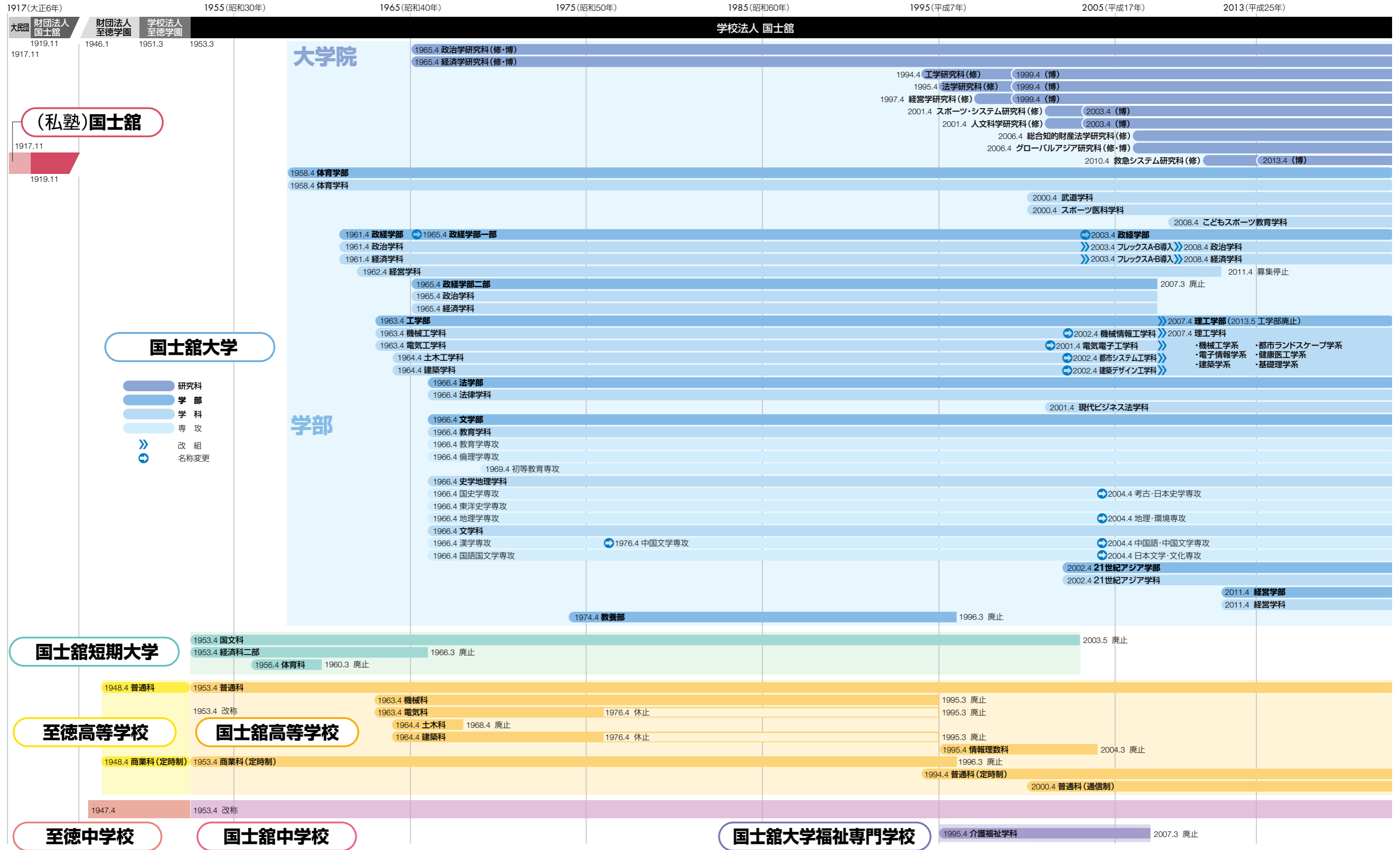


メイプルセンチュリーホール完成

- 2017 平成29年 国士館創立100周年

歴史 設置学校の変遷

38 Historical Overview



アクセス

40 Access



世田谷キャンパスへのアクセス

- 小田急線梅ヶ丘駅下車、徒歩9分
- 東急世田谷線松陰神社前駅または世田谷駅下車、徒歩6分
- 渋谷駅西口バスターミナル18番乗り場から「世田谷区民会館」行きバスで終点下車、徒歩1分

町田キャンパスへのアクセス

- 小田急線鶴川駅からスクールバス(無料)
- 小田急線鶴川駅バスターミナル2番乗り場から、「六丁目」「センター」「北廻り」のいずれかを経由する「鶴川団地」行きバスで8~10分、「国士館大学前」下車

多摩キャンパスへのアクセス

- 小田急多摩線・京王相模原線永山駅からスクールバス(無料)
- 小田急多摩線・京王相模原線永山駅から、「鶴川駅」「永山五丁目」行きバスで、「永山高前」下車、徒歩5分

鶴川駅スクールバス乗り場 <鶴川駅から町田キャンパスまで>

- 所要時間:10分
- 鶴川駅の改札口(1か所のみ)を出て、まっすぐ鶴川街道まで20m進む。ベンチが目印。

永山駅スクールバス乗り場 <永山駅から多摩キャンパスまで>

- 所要時間:10分
- 永山駅改札口を出て、階段を降りる。左手にある交番の前方に見える金属製のオブジェが目印。



※スクールバスはイベント開催時を除く日曜・祝日は運行しません。詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.kokushikan.ac.jp/access/index.html>

お問い合わせ窓口一覧

Directory Inquiries

各学部へのお問い合わせ (各種証明書の発行など)	政経学部事務室 体育学部事務室 体育学部子どもスポーツ教育 学科事務室 理工学部事務室 法学部事務室 文学部事務室 21世紀アジア学部事務室 経営学部事務室 大学院課	03-5481-3151 042-339-7202 042-736-2330 03-5481-3251 03-5481-3311 03-5481-3232 042-736-1050 03-5481-3146 03-5481-3140
学生の課外活動・奨学金・ 学生食堂など	学生・厚生課	03-5451-8114
諸資格(教員免許等)・単位 互換・学費に関すること	教務課	03-5481-3203
就職に関すること	キャリア形成支援センター	03-5481-3308
国際交流・留学生・留学 制度など	国際交流センター	03-5481-3206
図書館利用および学術情 報検索	図書館・情報メディアセンター	03-5481-3216
情報基盤について	図書館・情報メディアセンター	03-5481-3220
公開講座について	生涯学習センター	03-5451-1921
大学入試に関すること	入学課	03-5481-3211
併設校と各キャンパス	国士館高等学校(全日制) 国士館高等学校(定時制) 国士館高等学校(通信制) 国士館中学校 世田谷キャンパス(代表) 町田キャンパス(代表) 多摩キャンパス(代表)	03-5481-3131 03-5481-5827 03-5481-5827 03-5481-3114 03-5481-3111 042-735-3111 042-339-7200
その他(学園案内全般)	総務課	03-5481-3112
国士館の沿革/資料に関 すること	国士館史資料室	03-3418-2691
同窓会に関すること	国士館大学同窓会事務局	03-3413-7303

2017年に創立100周年を迎えます



国士館要覧 2013

発行日 平成25年7月1日
発行 学校法人国士館
編集 理事長室広報課

〒154-8515
東京都世田谷区世田谷4-28-1
Tel 03-5481-3115

<http://www.kokushikan.ac.jp/>

本要覧は2013年5月1日現在の情報に基づいています。

